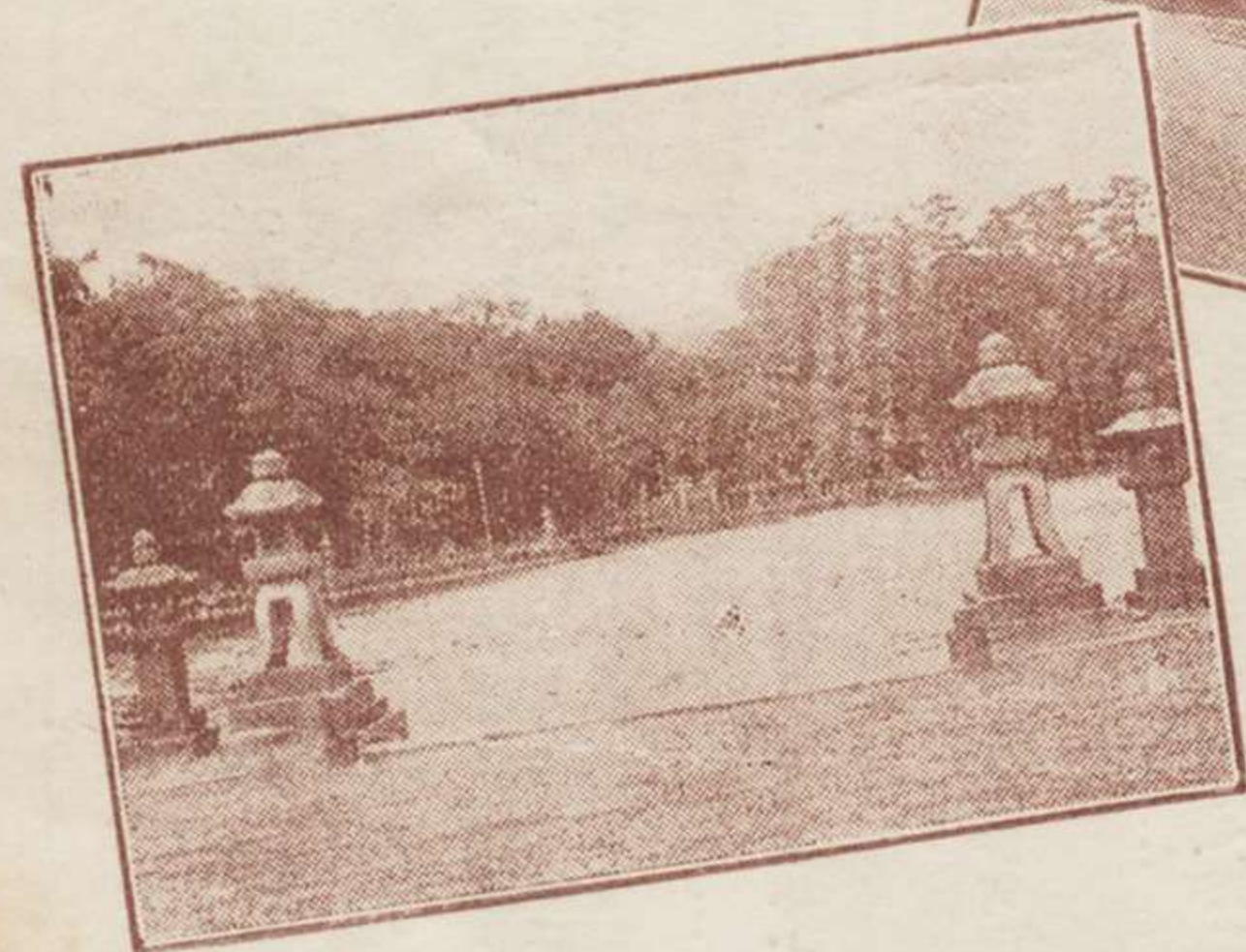
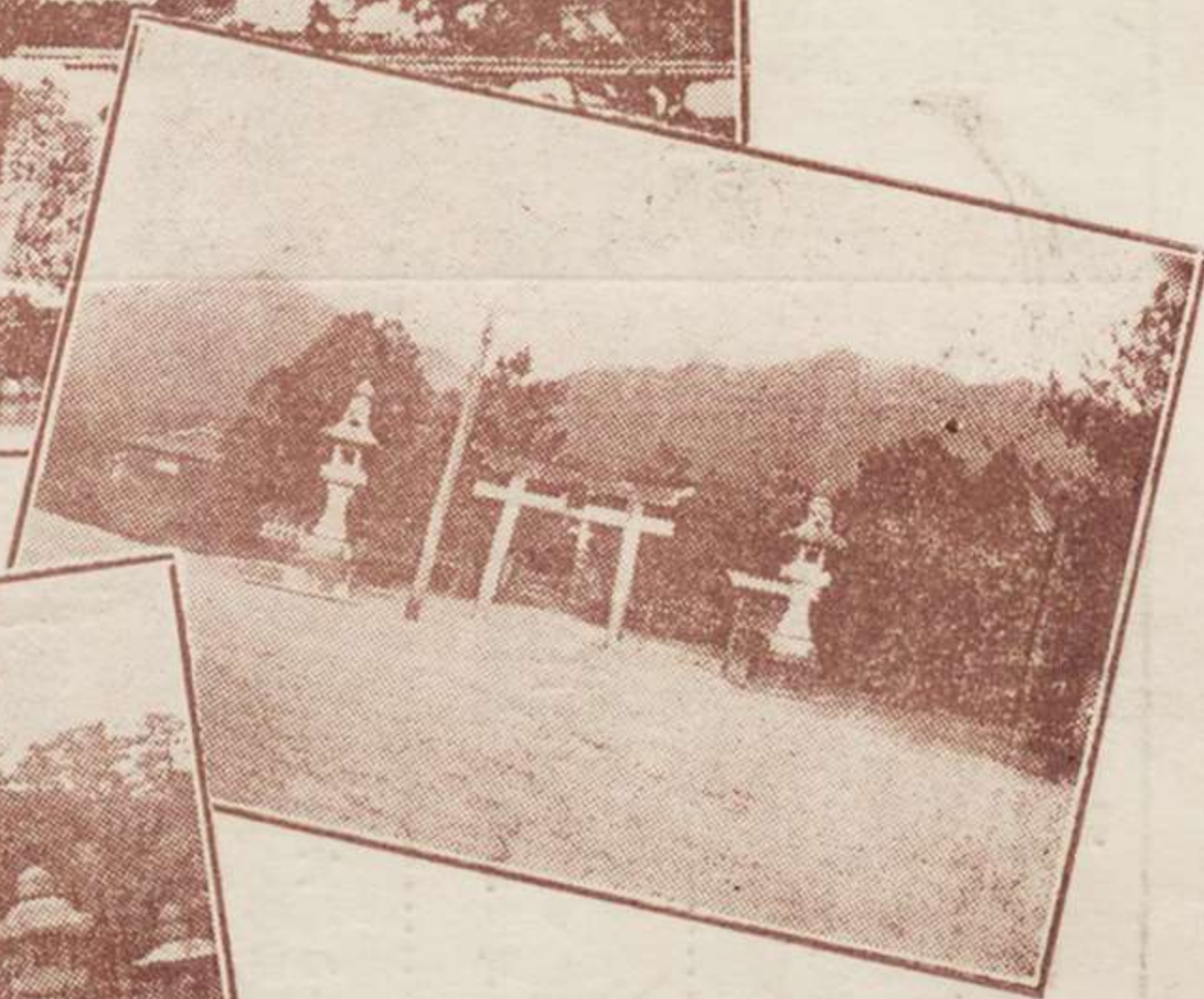
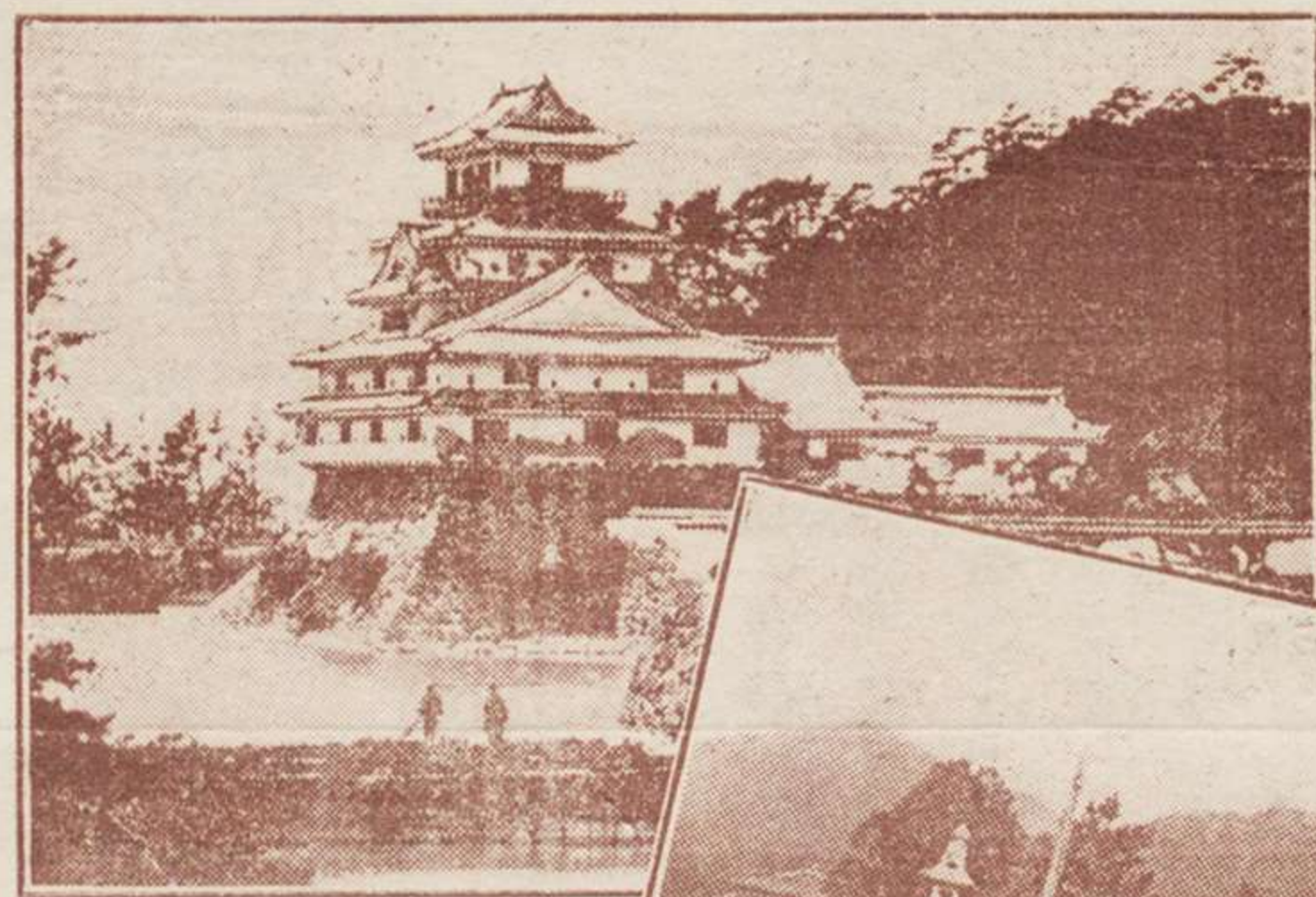


# 報月萩

號九十二第



號月八年五和昭

行發町萩縣口山



昭和五年八月十三日印刷納本  
昭和五年八月十五日發行

昭和五年五月六日第三種郵便物認可  
(毎月一回十五日發行)

第二十九號



であるから併せて各漁業組合の幹部に對し希望を述べ置く次第である

國の商工業を蔑視するの道理であるから此の機會に於て自他共に大に反省し單り國産品を使用するに止らず

至自至自

なるもの□國勢調査員調査區域番号□天機並御機嫌奉伺  
御禮の爲記帳する場合の服裝

自一四三

□青年訓練所主事及指導員へ謝狀傳達□現役海軍兵士の  
篤行

事及指導員へ謝狀傳達□現役海軍兵士の  
自一四  
至二五

實施□明倫校來校視察者□中等教員試驗合格者□傳統の誇りに輝く玉江浦の青年宿

核視察者□中等教員試験合格者□傳統の  
 湘の青年宿

自二五  
 至四三

至自  
四四  
六六

集□陸軍將校生徒募集□海軍生徒募集□勤務演習召集に  
就て□戰病死者遺族及公傷兵慰安會

至自  
四四  
九六

□自轉車鑑札を無交さなければならぬもの□秒殺暴投票面も少しは利用して欲しい

至自  
五四  
一十

木交通

認可□瓦斯事業經營の許可□藍場川筋の

[illegible]

宣傳の小唄□公人及私人

□產婆登錄□七月中町立堀内病院の狀況□昭和五年一月  
 以降死亡者埋火葬別□昭和五年一月以降傳染病患者數□

□萩町の人口動態□七月中出生届出の者□七月中死亡届  
 出の者□七月中出入寄留者数統計□七月中入寄留者及復

寄留者及退去者□受刑者

新しき便にかきな藪で  
圖書室贈  
田年の今月  
七日中萩町日誌



進んで之を海外に輸出する様努力して頂きたいと思ふ

近時萩の史蹟を見學する者又は笠山を科學的方面よりして研究する爲見學團體の入込む者に多きを加へ應接の違なきに至れることは洵に喜ぶべきであるが現在の萩町としては是等の見學團體を遇する爲何等の施設をも爲し得ざるを遺憾とするのである左りとて町設の案内係をして時々刻々に寄せ来る見學者を其の度毎に牽き連れることの困難なるに鑑み差當りの試みとして指月城址、明倫館址、松下村塾、伊藤公舊宅、東光寺、明神池及笠山の七箇所に土産品の販賣店を兼ねたる案内者を常置しては如何やと考へてゐる近く希望者を選良し能ふ限り見學者に對し便宜を與へ史蹟遊覽地の名に反かぬ様致したいと思ふ

## 庶般行政

### 宮廷錄事

○行幸行啓 天皇 皇后兩陛下は七月四日午後一時四十五分御出門大宮御所へ行幸行啓あらせられた

○皇后宮行啓 皇后陛下は七月二日午前九時五十分御出門東京豐盛學校及東京盲學校へ行啓午後三時

五十分還御あらせられたり

○行幸行啓 天皇 皇后兩陛下は七月十一日午前十一時二十五分御出門同十三時三十分東京驛御發車同十一時五十分逗子驛御著車午後零時八分葉山御用邸に御安著あらせられたり

○行幸並御安著 天皇陛下は本月十九日午前七時四十五分葉山御用邸御出門同八時逗子驛御發車同九時十五分東京驛御著車陸軍士官學校へ行幸同十一時五十分同校御出門午後零時五分東京驛御發車同一時二十分逗子驛御著車同一時三十五分葉山御用

邸に御安著あらせられたり

○明治天皇例祭 七月三十日明治天皇例祭の儀を行はせらる

○還幸及行幸 天皇陛下は七月二十九日神奈川縣葉山より還幸同三十日同地へ行幸あらせらる

### 本縣知事の召集に係る

#### 阿武大津兩郡町村長集會

七月三十日午前八時三十分より町衙に於て阿武、大津兩郡町村長集會を開催、黒崎知事は渡會、中島兩地方技師、原田足立兩事務官、水沼視學以下五名を率ひて臨席別掲知事の訓示に次で左記事項に付詳細の指示を終り午後三時三十分閉會せり

- 一、教育に關する件
- 一、國產品の使用獎勵に關する件
- 一、失業の防止救済に關する件
- 一、産業振興に關する件
- 一、衛生に關する件
- 一、市町村事務に關する件

一、風害の善後措置に關する件

### 阿武、大津兩郡町村長集會の際知事訓示

茲に各位の會同を煩はし現下重要と認むる時務に關し所懷の一端を陳ふるの機會を得たるは予の欣快とする所なり

我國現下の情勢は金解禁の後を受け輸入の防遏を計ると共に國內の産業を振興し輸出の獎勵に努力するの要あるは各位の既に知悉せらるゝ所なり

輸入防遏の手段としては國產品の愛用を徹底せしむること特に緊切なり而も此の事たる我國産業の振興を促進すると共に失業問題の解決に資すべき重大なる意義を有するものと謂はざるべからず故に本縣は嚮に告諭を發して國產品の使用に關し縣民の理解を促すと共に縣下數箇所に於て對比展覽會を開き内外製品比較研究の機會を作り尙國產品愛用週間を舉辦して愛國の精神に訴へ國產品使用の必要を強調したり



惟ふに我國は維新後西歐文物の採擇に急なるの餘商品物資に至るまで「舶來品」と稱し之を偏重するの風自ら馴致せられて今日に迫り然るに近時我國產業界は生産技術の進歩に伴ひ外國品に比し何等の遜色なき優良品の產出を見るのみならず或は寧ろ之を凌駕するもの尠からざるに拘らず迷妄未だ醒めずして一般に國産品を輕んずるの弊を脱し得ざるは洵に遺憾とする所なり之を歐米の列強に見るに夙に國內産業興隆の礎地として重きを國産品の使用に置き大戰後特に力を茲に致さざるはなし各位は宜く我國の現狀に思を致し官民一致國民的愛國運動として國産品使用に全力を傾注せられむことを望む

輸出増進の手段としては産業の合理化を計り大に各種産業を振興するの要あり而して本縣に在りては獨り工業の合理化に止まらず農業其他各種産業に亘りて其の生産消費分配の方面を通じて合理的に經營することを念とせざるべからず今本縣産業に付大要を述べれば農業の宗たる米麥に在りては品種の統一、施肥、調製の改善並販賣の統制に於て一段の努力を要することは京阪市場の批評に於ても一致せる

縣下の工業品、水産製造品並副業生産品に於ては種類の嚴選、規格の統一、販賣組織の統制改善等其の商品的價値を向上するに於て力を致すべき所多きを認む一層の研究と努力を要望す

以上の外各地方に於ける産業合理化の具体的方法と振興策は主任者より別に陳ふる所あるべし  
現時地方の實狀は都鄙を通じて金融の圓滑を圖ること頗る切なるものあり縣下の産業組合は發達の跡相當見るべきものありと雖産業の促進上其の活動につき尙遺憾の點尠しとせず

固より組合經營の放漫に流るゝが如きは嚴に之を誠めざるべからずと雖特に中小商工農業者に對し金融其他の利便を與へて之を保護誘掖するが如きは現下の狀況に於て相互扶助の組合精神に鑑み必要なる事項なりとす而して産業組合の堅實なる進展を圖るには組合員各自が組合制度の本旨を体し其の業務の經營につき一層留意し自活自製の實あらしめざるべからず各位の深き考慮と努力を望む

次に失業問題は又現下に於ける重大なる社會問題にして政府は之が對策に就き慎重なる考慮を須る財

意見なり蔬菜、果樹等の園藝に在りては尙生産増殖の餘地多く出荷販賣の組織を改善し特色ある商品として市場に重きを爲すに至らしむるが如きは特に留意を要すべきことに屬す

養蠶業は近時著しく勃興の氣運に向ひたるも偶世界不景氣に禍せられて繭價の暴落を來し當業者中或は前途を悲觀せるが如きものなきに非ざるべしと雖此の難局に堪へ克く將來に備へしむるは刻下極めて重要なことなるを以て各位は當業者を鼓舞指導するに遺憾なきやう特に意を煩はせられたし

肥料の配給に關しては政府の方針定まり合理的に之を統制するの施設を見る將に近きにあらむとす本縣に於ても此の方針に則り之が指導に努むると共に自給肥料の改良増殖に一層力を致さむとす又家畜保險組合の普及を計り用排水を改良して耕地の利用を増進し公有林野造林の計畫實施を促進し林道開鑿等の方法に依り林産物の市場搬出を容易ならしむる等は現下必要の事項たるを以て農村經濟の全般に亘り克く事の輕重を考量し適當なる方策を講せられむことを望む

界の安定、産業の發達、貿易の振興等失業防止の根本的方策に力を致すと共に當面の救済策としては官營事業施行の調節を計り失業救済事業の企畫を促し之が爲には起債許可を緩和し更に職業紹介會機關の整備充實を奨め一面失業防止委員會を常設して失業案問題を綜合的に處理し之が對策に遺憾なきを期しつゝあり今縣下に於ける失業狀況を査察するに本年六月一日現在失業者推定數は三千八百八十一人内要救済者六百六十三人にして其の數に於て必ずしも多しと爲さざるも經濟界の不況益々深刻を加ふるの際之が救済と豫防の緊要事たるを認め曩に各位の配意を求むる所ありたりしが縣下としては差當り昭和五年度に施行すべき土木事業等に關し特に失業者多き地方に於ける救済に資せむが爲事業の施設を按配すると共に一定の失業者には優先的に就職の便宜を與ふることとせり各位亦各地の情況に應じて適切なる方途を講せられむことを望む尙農村に於ては一見勞力過剩にして歸農失業者收容の餘地なきか如しと雖農業經營方法の改善、耕地の集約化、副業の振興等に依り相當勞力利用の途あるべく之亦實情に應じ適當なる



措置に出でられたし

本縣教育の實績は概して堅實なる進歩を遂げつゝあるも此の機會に於て特に留意を冀はんとするは青年期教育並社會教育の振興なり曩に大正九年 今上陛下東宮に在せし時畏くも青年團に對し特に優渥なる令旨を下し給ひ國連進展の基礎は青年の修養に須つこと多き旨を宣示し給へり爾來其の局に當る者令旨を奉体して銳意青年教育に關する施設振興に努力しつゝありと雖是等青年教育の現狀は他の學校教育に比して尙著しく不振の狀態に在り念ふに小學校卒業者の大多數は直に職業に従事し或は家事に携はるものにして是等男女青年の數は學校教育に就く者に比し遙に多數を占む随つて是等青年の教育に關しては最も力を輸すべき要あり殊に本年は恰も令旨奉載十周年に相當せるを以て之を記念すると共に實業補習學校青年訓練所及男女青年團體の進展に一段の獎勵を加へられむことを望む、叙上青年期教育の外更に進んで成人教育の普及を圖るは必要の施設なり彼の選舉廓清の問題の如き多年官民の均しく要望する所なるに拘らず今尙積弊の跡を絶つに至らざるは聖

代の恨事なりと謂はざるべからず各位宜しく學校教育と相俟つて社會教育の施設を充實して國民の政治的自覺を進め以て時弊の匡救と社會の福祉増進に寄與せられむことを望む

衛生施設の整備充實に關しては客年の會議に於て各位の留意を促したる所ありと雖縣民保健の狀態は尙未だ憂ふべきもの少からず本縣に於ける急性傳染病中「腸チフス」は近時著しく減退を見たるも赤痢に在りては昭和四年中に於ける患者發生數の割合は全國中の第二位にして其の死亡數も亦高率を示せり其の他結核、花柳病、トラホーム等の慢性傳染病の蔓延寄生蟲病の侵潤と共に家畜傳染病に在りても炭疽狂犬病は尙被害の甚しきものあり斯の如きは縣民の日常生活に於て不安不幸を招徠するのみならず産業經濟上に及ぼす影響亦甚大なるものあり是等疾患の豫防撲滅を圖り縣民健康狀態の改善を期するは眞に刻下の急務にして當局者の不斷の努力と國民衛生思想の普及とに俟たざるべからず各位は一層社會世相の推移と地方の實情とを察し衛生施設を充實して保健衛生の向上發達に一段の力を致されむことを望む

以上現下重要と認むる事項に關し大要を述べたり詳細は別に指示する所あるべし各位は地方の實情に應じて銳意實績を擧げられむことを望む。

### ●阿武郡町村長集會

七月五日午後一時より町衙に於て阿武郡町村長集會を開催。見島村長を除く外全部出席し左記事項に付協議を遂げ午後二時三十分閉會せり

- 一、林業共同施設獎勵費豫算増額方を其の筋に稟請の件
- 一、木炭製造業者に對する製造業税の免除方を其の筋に建議するの件
- 一、町村會議員の參考となるべき資料冊子購讀の件
- 一、助役以下町村吏員徽章購入方の件
- 一、自治事務講習生推薦の件

### ●第七回萩町會

七月七日午後二時より第七回萩町會を開會。出席議

員二十六名。左記事項を附議何れも原案の通可決定し午後三時半閉會したり。

- 一、昭和五年度萩町特別税戸數割賦課額決定の件
- 一、特別戸數割賦課免除の件
- 一、寄附受理の件(金壹百圓)
- 一、山口萩線府縣道中橋本橋架換請願の件

### ●叙任及辭令

- 朝鮮總督府專賣局事務官 山下眞一
- 陸叙高等官五等(萩町出身者)
- 山口縣立萩高等女學校教諭 伊藤通利
- 公立高等女學校教諭に任じ高等官七等を以て待遇せらる
- 從六位勳六等 中野貞介
- 叙正六位(以上萩町關係者)

### ●萩町辭令

- 任萩町書記補 雇 俵田俊子



書記補 俵田 俊子  
依願免本職(七月十八日付)

雇 福 永 ミ ッ  
戸籍課勤務を命ず(七月二十日)

書記 中 村 昇 典  
稅務課町稅係勤務を命ず

書記補 佐 方 貞 尋  
稅務課國稅係勤務を命ず

書記 中 村 昇 典  
第一區外勤書記を命ず

書記 中 村 三 藏  
第二區外勤書記を命ず

書記補 大 田 要 盈  
第三區外勤書記を命ず

書記 時 山 帳 藏  
第四區外勤書記を命ず

書記補 渡 邊 治  
第五區外勤書記を命ず

書記 大 田 隆 明  
第六區外勤書記を命ず

○七月中發令の主要法規○

●國の法規

◎七月四日内閣告示第四號を以て昭和五年國勢調査施行令第十二號の規定に依る國勢調査徽章の件公布

◎七月十五日逓信省令第三十號を以て簡易生命保險規則中改正の件公布

◎七月十六日逓信省令第三十二號を以て八月一日より通常葉書及往復葉書様式を改正の件公布

●縣の法規

◎七月十八日山口縣訓令第二十四號を以て巡査採用試験施行細則改正公布

◎七月二十二日山口縣令第四十三號を以て航運營業取締規則公布

◎七月二十二日山口縣訓令第二十六號を以て航運營業取締規則取扱手續公布

●萩町告示の主なるもの

一、町村道路線認定變更の件(堀内馬場の丁深の町線)

一、定期大掃除施行の件

一、第一次家屋稅調查委員會議及第二次家屋稅調查委員選舉の件

●國勢調査員調査區域番號

昭和五年國勢調査に付本町に於ける各調査區の番號區域及各區域を擔當する國勢調査員並に豫備員たる調査員左の如し

| 調査區番號 | 區域          | 調査員の氏名 |
|-------|-------------|--------|
| 第一號   | 川島の内川島第一區一圓 | 西山 和一  |
| 第二號   | 同 第二區一圓     | 堀 義彦   |
| 第三號   | 同 第三區一圓     | 阿武龜之丞  |
| 第四號   | 土原の内土原第一區一圓 | 大田梅五郎  |

|       |                       |         |        |    |
|-------|-----------------------|---------|--------|----|
| 第五號   | 同                     | 第二區一圓   | 原      | 榮作 |
| 第六號   | 同                     | 第三區一圓   | 楊井     | 誠治 |
| 第七號   | 橋本町の内橋本町區一圓           | 宗樂      | 正一     |    |
| 第八號   | 御許町の内御許町第一區一圓         | 梶本滿     |        |    |
| 第九號   | 同                     | 第二區一圓   | 中村善右衛門 |    |
| 第十號   | 唐樋町の内唐樋町區一圓           | 松浦      | 茂      |    |
| 第十一號  | 江向の内江向第一區一圓           | 松本      | 雅樂     |    |
| 第十二號  | 同                     | 第二區一圓   | 神代     | 大介 |
| 第十三號  | 同                     | 第三區一圓   | 山本     | 詩教 |
| 第十四號  | 同                     | 第四區一圓   | 中原     | 與平 |
| 第十五號  | 河添の内河添第一區一圓           | 鈴川      | 喜重     |    |
| 第十六號  | 同                     | 河添第二區一圓 | 中村     | 福藏 |
| 第十七號  | 平安古町の内平安古町第一區一圓       | 安藤      | 方亮     |    |
| 第十八號  | 同                     | 第二區一圓   | 戸田     | 元輔 |
| 第十九號  | 同                     | 第三區一圓   | 池田喜代次郎 |    |
| 第二十號  | 堀内の内堀内第一區一圓           | 池内      | 壽一     |    |
| 第二十一號 | 同                     | 第二區一圓   | 藤井     | 賴三 |
| 第二十二號 | 南片河町南古萩町の内南片河町南古萩町區一圓 | 岩本      | 治定     |    |



|       |                                    |       |       |                   |       |
|-------|------------------------------------|-------|-------|-------------------|-------|
| 第二十三號 | 吳服町二丁目吳服町二丁目油屋町ノ内吳服町二丁目吳服町二丁目油屋町一四 | 佐々木藤作 | 第三十八號 | 吉田町の内吉田町一圓        | 後藤 正七 |
| 第二十四號 | 古魚店町北片河町春若町ノ内古魚店町北片河町春若町一四         | 三宅 茂一 | 第三十九號 | 古萩の内古萩町一圓         | 三舛 市熊 |
| 第二十五號 | 樽屋町今魚店町の内樽屋町今魚店町一圓                 | 長富吉五郎 | 第四十號  | 今古萩町の内今古萩町一圓      | 岩武 改一 |
| 第二十六號 | 北古萩町の内北古萩町第一區一圓                    | 後藤一五郎 | 第四十一號 | 熊谷町の内熊谷町一圓        | 藤山清太郎 |
| 第二十七號 | 同 第二區一圓 和泉屋阪次郎                     |       | 第四十二號 | 濱崎新町の内濱崎新町第一區一圓   | 田中穂五郎 |
| 第二十八號 | 鹽屋町細工町の内鹽屋町細工町一圓                   | 木原 鶴松 | 第四十三號 | 同 第二區一圓 岡村 秀藏     |       |
| 第二十九號 | 惠美須町の内惠美須町一圓                       | 長谷千代助 | 第四十四號 | 濱崎町の内濱崎町第一區一圓     | 岡村 穂藏 |
| 第三十號  | 瓦町の内瓦町一圓                           | 山田 治郎 | 第四十五號 | 同 第二區一圓 小野 一三     |       |
| 第三十一號 | 米屋町の内米屋町一圓                         | 藤井又三郎 | 第四十六號 | 同 第三區一圓 尾崎 久市     |       |
| 第三十二號 | 東田町の内東田町第二區一圓                      | 齋藤文吉  | 第四十七號 | 同 第四區一圓 進藤長兵衛     |       |
| 第三十三號 | 同 第二區一圓 出羽百合助                      |       | 第四十八號 | 東濱崎町の内東濱崎町第一區一圓   | 進藤 福松 |
| 第三十四號 | 西田町の内西田町一圓                         | 山田 七郎 | 第四十九號 | 東濱崎町土原の内東濱崎町第二區一圓 | 三好 千一 |
| 第三十五號 | 津守町の内津守町一圓                         | 矢田 岩藏 | 第五十號  | 榑東の内目代區一圓         | 竹内 植藏 |
| 第三十六號 | 上五間町の内上五間町一圓                       | 松村惣十郎 | 第五十一號 | 同 中津江區一圓          | 吉村 藤吉 |
| 第三十七號 | 下五間町の内下五間町一圓                       | 西村安三郎 | 第五十二號 | 同 上野區一圓           | 林 恒若  |
|       |                                    |       | 第五十三號 | 同 椎原區一圓           | 山縣 慶造 |

|       |            |        |       |              |          |
|-------|------------|--------|-------|--------------|----------|
| 第五十四號 | 同 中の倉第一區一圓 | 福島 幸輔  | 第七十四號 | 同 第五區一圓      | 富田 徳松    |
| 第五十五號 | 同 中の倉第二區一圓 | 大谷 正一  | 第七十五號 | 同 第六區一圓      | 梶本 甚吉    |
| 第五十六號 | 同 松本市區一圓   | 山本 新市  | 第七十六號 | 大字榑の内河内區一圓   | 田村喜右衛門   |
| 第五十七號 | 同 船津區一圓    | 西郷喜兵衛  | 第七十七號 | 同 笠屋區一圓      | 佐々木治郎右衛門 |
| 第五十八號 | 同 無田ヶ原區一圓  | 永安 豐太  | 第七十八號 | 同 大屋區一圓      | 大谷 福藏    |
| 第五十九號 | 同 香川津東區一圓  | 長岡 佐吉  | 第七十九號 | 同 冲原區一圓      | 幸坂 好藏    |
| 第六十號  | 同 全 西區一圓   | 岡本 徳助  | 第八十號  | 同 霧口區一圓      | 宗樂 竹藏    |
| 第六十一號 | 同 全 南區一圓   | 中村 正一  | 第八十一號 | 同 金谷區一圓      | 長嶺 吉藏    |
| 第六十二號 | 同 全 北區一圓   | 金子 豊熊  | 第八十二號 | 同 榑町區一圓      | 田口 良允    |
| 第六十三號 | 同 鶴江第一區一圓  | 村木 鶴松  | 第八十三號 | 同 雜式町區一圓     | 金子 金八    |
| 第六十四號 | 同 全 第二區一圓  | 佐伯 常藏  | 第八十四號 | 同 濁淵區一圓      | 羽鳥 俊男    |
| 第六十五號 | 同 前小畑區一圓   | 阿武 忠一  | 第八十五號 | 同 青海區一圓      | 堀 信三     |
| 第六十六號 | 同 後地區一圓    | 泉 利七   | 第八十六號 | 同 山田の内東木間區一圓 | 小坪 辰一    |
| 第六十七號 | 同 小畑浦第一區一圓 | 岩崎市太郎  | 第八十七號 | 同 西木間區一圓     | 有田 作二    |
| 第六十八號 | 同 全 第二區一圓  | 土井 貞吉  | 第八十八號 | 同 北木間區一圓     | 金重 徳藏    |
| 第六十九號 | 同 後小畑區一圓   | 山本平左衛門 | 第八十九號 | 同 山田第一區一圓    | 原 嘉彦     |
| 第七十號  | 同 越ヶ濱第一區一圓 | 岸田 雪城  | 第九十號  | 同 全第二區一圓     | 田村重左衛門   |
| 第七十一號 | 同 全 第二區一圓  | 廣田 甚吉  | 第九十一號 | 同 奥玉江第一區一圓   | 小田 岩一    |
| 第七十二號 | 同 全 第三區一圓  | 阿部 衆藏  | 第九十二號 | 同 奥玉江第二區一圓   | 來島 末藏    |
| 第七十三號 | 同 全 第四區一圓  | 井町 常一  | 第九十三號 | 同 藤ヶ瀬區一圓     | 藤井庄兵衛    |



|       |                         |       |
|-------|-------------------------|-------|
| 第九十四號 | 大字山田玉江浦第一區ノ             | 松谷 新一 |
| 第九十五號 | 内水道筋以南一圓                | 柳 敬之助 |
| 第九十六號 | 山田ノ内玉江浦第二區一圓            | 上利久一  |
| 第九十七號 | 倉江區一圓                   | 柳井光太郎 |
| 第九十八號 | 小原區一圓                   | 伊藤 秀一 |
| 第九十九號 | 東濱崎町ノ内濱崎港内椿東ノ内新川港内一帯ノ水面 | 井上彌七  |
| 豫備員   |                         | 中原 竹一 |
| 同     |                         | 福永 芳太 |
| 同     |                         | 三好 信義 |
| 同     |                         | 林 長一  |
| 同     |                         | 中島 恒一 |
| 同     |                         | 藤田 常藏 |
| 同     |                         | 兒玉 元一 |
| 同     |                         | 山本 秀雄 |
| 同     |                         | 河村 利介 |
| 同     |                         | 山田 新作 |
| 同     |                         | 大山 芳雄 |
| 同     |                         | 佐々木市郎 |
| 同     |                         | 高壽 賢一 |

|    |       |
|----|-------|
| 同  | 野村 善植 |
| 同  | 阿武 正勝 |
| 同  | 村木 榮熊 |
| 同  | 河野 道  |
| 同  | 品川 作三 |
| 同  | 番屋 種一 |
| 合計 | 百十八名  |

◎天機並御機嫌奉伺御禮の爲記帳する場合の服裝

天機並御機嫌奉伺又は御禮の爲記帳する場合の服裝に關し今般其の筋より左記の通通牒ありたり  
左の場合男子は「モーニングコート、シルクハット」女子は白襟紋付(縫紋を除く)を以て何れも通常服に代用の儀差許さる  
一、天機並御機嫌奉伺の爲記帳する場合  
一、任官叙位叙勳賜物等の御禮の爲記帳する場合

旌 表

◎青年訓練所主事及指導員へ謝狀傳達

青年訓練所創設以來滿四ヶ年間同一青年訓練所に勤務せる主事及指導員に對し青年訓練の紀念日七月一日付を以て本縣知事より謝狀の贈呈を受けたる者左の如し

|          |     |       |
|----------|-----|-------|
| 明倫青年訓練所  | 主 事 | 田中 眞治 |
| 同        | 指導員 | 松村 正一 |
| 椿東青年訓練所  | 同   | 木藤 梅吉 |
| 同        | 同   | 山根 祝作 |
| 同        | 同   | 羽鳥 經雄 |
| 越ヶ濱青年訓練所 | 同   | 長谷 武光 |
| 同        | 同   | 伊藤 興之 |
| 同        | 同   | 井町松三郎 |
| 椿青年訓練所   | 同   | 伊藤 幾助 |
| 同        | 同   | 栗山 亥駒 |

◎現役海軍兵士の篤行

|         |     |       |
|---------|-----|-------|
| 同       | 同   | 佐々木市郎 |
| 同       | 同   | 小本幸太郎 |
| 同       | 主 事 | 倉田 晋七 |
| 同       | 指導員 | 池田 彦三 |
| 同       | 同   | 高壽 賢一 |
| 同       | 同   | 田村 義熊 |
| 木間青年訓練所 | 同   | 中原市五郎 |

萩町大字椿大屋出身 伊藤 秀雄  
海軍一等水兵

右の者休暇歸省六月二十八日午前八時五分萩驛發汽車にて横須賀へ飯艦の途中三見、三隅間に於て土砂崩壊の爲列車顛覆埋没の奇禍に遭遇したる際禪身の勇氣を以て客車の内部より扉を破壊して同乗したる老人を救ひ再び危険を冒し同客車内より二人の老婆を救援したる瞬間第二回の崩壊に依りその車輛を埋没したりと同人は三人を扶け乍ら三隅驛に到り又現場に引返して同僚古谷兵曹の死體を發掘し之を遺族



陸軍歩兵少尉正八位勳六等功七級 丸山作次郎  
萩商業學校書記に任ず

(七月八日付 山口縣)

學事

◎萩町内各小學校兒童  
身體檢查狀況  
(其の二)

◎町立萩商業學校職員異動

町内各小學校兒童の男女別身體検査（年齢十年以下の兒童は視力検査を施行せず）の状況左の如し

椿東尋常高等小學校女兒童身體檢查狀況

[illegible]

越ヶ濱尋常高等小學校男兒童身體檢查狀況

[illegible]

越ヶ濱尋常高等小學校女兒童身體檢查狀況

| 年 齡     | 人 檢 | 查 身   | 長 體  | 重 胸 | 圍  | 脊 柱      | 視 力 | 眼 疾 | 耳 疾 | 齧 齒 | 其ノ他ノ疾病  |
|---------|-----|-------|------|-----|----|----------|-----|-----|-----|-----|---------|
| 年 七 年   | 二九  | 一〇六、四 | 一七、一 | 五、九 | 二八 | 正視遠視近視亂視 | 四   | 一   | 一   | 三   | 扁桃腺炎疾其他 |
| 年 八 年   | 三六  | 一二、四  | 一八、二 | 五、一 | 三六 | 正視遠視近視亂視 | 八   | 一   | 一   | 三   | 扁桃腺炎疾其他 |
| 年 九 年   | 四〇  | 一六、六  | 二〇、三 | 五、三 | 四〇 | 正視遠視近視亂視 | 五   | 一   | 一   | 三   | 扁桃腺炎疾其他 |
| 年 十 年   | 三三  | 一一九、三 | 二三、一 | 五、八 | 三三 | 正視遠視近視亂視 | 一〇  | 一   | 一   | 二   | 扁桃腺炎疾其他 |
| 年 十 一 年 | 三三  | 一二六、七 | 二五、四 | 六、一 | 三三 | 正視遠視近視亂視 | 二   | 一   | 一   | 三   | 扁桃腺炎疾其他 |



| 計  | 十四年  | 十三年  | 十二年  |
|----|------|------|------|
| 二四 | 九    | 三    | 三    |
| 一  | 一四、六 | 一三、三 | 一三、六 |
| 一  | 三、五  | 三、〇  | 二、五  |
| 一  | 六、〇  | 六、〇  | 六、二  |
| 二四 | 八    | 三    | 三    |
| 七  | 一    | 一    | 三    |
| 五  | 八    | 六    | 六    |
| 一  | 一    | 一    | 一    |
| 一  | 一    | 一    | 一    |
| 一四 | 一    | 五    | 六    |
| 一  | 一    | 一    | 一    |
| 三  | 二    | 三    | 五    |
| 一  | 一    | 一    | 一    |
| 一  | 一    | 一    | 一    |
| 二六 | 七    | 二〇   | 二五   |
| 二  | 一    | 三    | 四    |
| 一  | 一    | 一    | 一    |
| 二〇 | 一    | 一    | 三    |

町内實業補習學校長協議會

本縣實業補習學校施設要項改正に伴ふ諸件協議の爲七月十六日午後一時より町衙に於て町内六實業補習學校長の協議會を開催せり

萩町小學校及實業補習學校農業教員協議會

小學校及實業補習學校農業科に關する恒例に依る協議會を七月十七日午後二時より町衙に開催各學校關係職員並萩町技手及萩町農會副會長等會同協議後東田町吉村風月堂に於ける夏蜜柑マーレードの製造狀況を視察せり

游泳講習會開設

阿武郡教育會、萩町及萩商工會聯合主催の游泳講習會は七月二十七日より八月七日迄十二日間菊ヶ濱海水浴場にて開催することとなり二十七日午前九時同所松林の中に於て開會式を舉行椿東小學校訓導居田省吾氏を講師とし講習申込者は約八百名に達せり游泳の指導に付ては右講師の外數名の助手を以てし八月四日遠泳大會を催し七日閉會式後游泳大會を行ふ豫定なり  
因に海水浴場の設備概要左の如し  
水上設備 飛込臺三基、ターニング臺四基、境界浮標  
陸上設備 自動電話男女脫衣所、各一箇所淡水浴場二箇所、ブランコ一基、休憩所及便所

指月公園内に於ける夏季林間學校

萩町主催の下に七月二十七日より八月九日まで向ふ二週間指月公園内に於て虛弱兒童の健康増進を計る目的により夏季林間學校を開く七月廿七日午前九時同所に來賓及保護者多數參列開校式を舉行秋田學務課長の開會の辭林町長の式辭に次ぎ田中主事の生徒心得に付訓示あり梅田萩電氣出張所長の祝辭保護者總代有田音彦氏の挨拶等ありて式を閉つ因に本年の收容兒童は男四十名女四十三名合計八十三名にして期間中に於ける行事左の如し

毎日行事  
八時朝會(八時半迄)學習(九時半迄)檢溫(十時迄)  
休息おやつ水泳遊戲体操散步(十一時半迄)休息  
晝食(〇時三十分迄)午睡(一時半迄)音樂遊戲体操  
童話水泳休息おやつ(三時迄)學習日誌記載(四時)  
期間中行事  
七月二十七日開校式体重測定 二十八日齒ブラシ

明倫小學校に於ける童話會

七月二十四日午後二時より本校兒童の尋五以上を講堂に、尋四以下を光源寺に分ち山口師範學校辯論部各地巡回童話會を開催せり尙之がプログラム中に本校兒童の唱歌をも加へ何れも盛會裡に午後四時半閉會せり

明倫小學校の游泳週間

本校は兒童心身の鍛練海國趣味の養成並に海軍思想の培養を目的として毎年菊ヶ濱海水浴場に於て兒童の游泳を行ふを行事とす本年は七月十四日より十九日迄を游泳週間と爲し授業時間を短縮して午前九時半より全職員指導看護の下に尋四以上一千五百名の



游泳練習を行ひ多大の効果を収め無事終了せり

### ●明倫小學校に於ける遊戲講習會

阿武郡女教員部會主催の下に七月二十八日より同三十一日まで四日間明倫小學校講堂に於て毎日午前八時より午後四時まで遊戲ダンス講習會を開く講師は長崎縣佐世保高等女學校教諭池田一郎氏にして出席會員は郡内七十六名大津美禰兩郡内十六名合計九十二名の多きに及びり尚三十日午後一時より同講堂に於て郡女教員部會の總會を開催講習會講師の遊戲に關する講演と椿東校佐竹、奈古校古屋兩訓導の東京全國女教員大會に出席の會況報告等ありたり

### ●青年訓練所員研究會

七月二十一日二十二日の兩日當町椿青年訓練所に於て本縣主催として阿武郡内青年訓練所主事及教練指導員を召集し訓練上に關する研究會を開催河村本縣

社會教育主事及山口聯隊區司令部世良中佐の兩指導官臨席第一日は椿青年訓練所の授業實施並批評研究第二日は午前中山口師範學校教諭溝上文學士の教授法並青年心理に付ての講演午後明木青年訓練所生徒の教練を實施し世良中佐の講評あり閉會したり

### ●木間青年訓練所紀念日の行事

本年は恰も青年訓練所創設四周年に當るにより木間青年訓練所に於ては七月一日の紀念日を以て左の通行事せり

自午前八時半 二時間 教練實施  
自午前十時 四十分 一時間 公民修身實地授業  
自午前十一時 四十分 一時間

自午前十一時五十分 二時間  
至午後一時 二時間  
▽父兄對指導員懇談  
並に訓練所本旨及入所  
する主事の講話

決議事項  
▽毎年の紀念日には必らず全部出席すること

出席狀況  
生徒十一名（在籍者は十五名中病氣欠席ありたる爲）父兄十二名區長、有志二十名

### ●青年團指導者修養會

山口縣並萩町共同主催の下に七月二十五日より同月二十七日迄三日間縣下各青年團指導者百二十名を會員とする修養會を萩町公會堂に開催修養會本部常任講師勝部耕藏氏は會員と寢食を共にし課程の通寸時の暇も無く熱誠指導せらるゝ所あり會期中に於ける行事左の如し

一、七月二十五日  
午後一時開會式 午後二時講義 午後六時音樂娛樂、團歌踊 午後七時協議、懇談 午後九時靜座、朗唱、禮拜  
一、七月二十六日

午前四時三十分菊ヶ濱海濱に於て國民体操、水浴靜座、朗唱、禮拜、午前八時講義、午後一時講義午後三時松陰神社境内の美化作業終りて松下村塾伊藤公舊宅、玉木文之進先生舊宅、松陰先生誕生

地、東光寺、越ヶ濱明神池を見學す 午後七時會員感話會、午後九時靜座、朗唱、禮拜  
一、七月二十七日

午前四時三十分菊ヶ濱海濱に於て國民体操、水浴靜座、朗唱、禮拜、午前六時講義 午前八時講義午前十一時閉會式

### ●青年團修養の果

神の關き給へる皇國の基礎を固めんとして白色倫理運動の陣頭に立てる同志一同は身を潔め魂を鎮め謹み謹みて、大神の御前に白さく。天皇の赤子八千萬の同胞が澄み渡る大空の如くさし昇る朝日の如く廣き心と赤き心を以て互に包み合ひ照し合ひ一人の怨み争ふ者もなく一人の荒み怠る者もなく總親和總努力の善風を振ひ興して山の奥海の極に至るまで皇國魂を漲らしめ給ひ次て我が皇祖皇宗の遺訓たる世界遍照の天業を成し遂ぐる幸日を來らせ給はんことを謹み謹みて祈り奉る。



明 魂

月歪むにあらす波騒ぐなり止水に映る月を見よ。波立つ心に映る萬象は眞の相をあらはさず。日暗むにあらず雲かゝるなり、雲去ればまた輝く。暗き魂を通過して眺むる世界は暗黒なり、静かなる心には一木一草も佛の姿を現はし明るき魂には行雲流水も神の妙工を啓示すなり、悟れる者の生涯には怨もなく呪もなく凡てを感謝し常に喜び絶えず祈る。花は情なく、開けども月は心無く照せども涙に仰げば月も泣き笑ひて見れば花も微笑む。迷へる者よ。父を怨むな兄を呪ふな妻を責むるな。子を罵るな。人を審判く眼を轉じて己が魂を凝視めよ。一切の怨一切の呪は、己が暗き魂の中にぞ芽生ゆる。朝に祈りて罪を悔い夕に禱りて穢を潔めよ。かくて本性に歸り明魂を現はし愛と汗との行者となりて光の中を歩む時明るき世界は其の脚下より展開せられむ

誓 願

人よ醒めよ、醒めて愛に歸れ。  
愛なき人生は暗黒なり。共に祈りつゝ総ての人と親しめ。吾が住む郷に一人の争ふ者もなきまでに人よ

起てよ、起ちて汗に歸れ。汗なき社會は墮落なり。共に禱りつゝ総ての人と働け。吾が住む里に一人の怠る者もなきまでに。

●越ヶ濱青年團月例会

越ヶ濱青年團は毎月三日の夜間青年團の月例会を開きつゝあるが、七月三日の會合は出席者比較的少く僅に十六名であつた、團長及當幹事(男教員)の講話、團員の意見發表等は毎月の通尚、七月十一日木間小學校へ行軍すべきことを決議した

●越ヶ濱女子青年團月例会

越ヶ濱女子青年團月例会は毎月十五日午後一時より全小學校に於て舉行し來れるが、七月の例会には特に生活改善に關し講話を行ひ例會後理科室にて活動寫眞を觀覽せしめた

●越ヶ濱小學校水泳指導

同校では七月十六日より一週間毎日午前十時半より尋四以上兒童の水泳指導を開始した

●水野文部省社會教育官來萩

文部省社會教育官水野常吉氏は當町に於ける社會教育視察の爲七月十二日午後二時來萩大體の調査を遂げたる後明倫小學校講堂に於て社會教育に關する講演並に町内の史蹟を見學し翌十三日下關市に向け出發せり

●山口高等商業學校特別

教育實施

七月十一日より同月二十四日迄十四日間當町堀内公會堂に於て山口高等商業學校貿易別科生の夏期特別教育の實施あり本施設に對しては萩中學校及堀内親交會等幹旋せらるゝ所あり併せて其の厚意を感謝す

●明倫校來校視察者

七月中に於ける本校に來校視察せる者左の如し

愛媛縣溫泉郡久米小學校長大塚義雄外六名 長崎縣東彼杵郡早岐小學校長八並芳造 愛媛縣新居郡金子小學校教員竹村時治郎 文部省社會教育官水野常吉 山口高等學校生徒河村秀二外五名 山口縣屬齋藤爲吉 山口縣屬岩根又重 資源局長官宇佐美勝夫 資源局總務部調查課長植村甲午郎 山口電氣局庶務課長電氣主事山田久雄 福岡中學校配屬將校杉山大尉外職員五名生徒十名 帝國大學研究科學生佐藤益男 山口師範學校教員興水渉外生徒四名 宇部小學校教員内田外二名 東京修養團常任講師勝部耕藏外一名 帝國大學教授市村博士 佐々並小學校長藤原政一 香川縣三豐郡財田上小學校長酒井近治外一名 廣島女子專門學校教授宮崎晴美外二名 山口縣視學脇本直甫 同村上賢一 東京帝國大學教授宇野哲人

●中等教員試驗合格者

第五十二回師範學校、中學校、高等女學校教員檢定



本試験に合格せる者の内萩町関係者及その受検科目  
左の如し

法制及經濟 萩町橋本區 柴田 房雄

### ●傳統の誇りに輝く

#### 玉江浦の青年宿

田澤義鋪氏を主幹とする大日本聯合青年團發行雜誌  
七月號に首顯の如く本町玉江浦の青年に關する記事  
を登載天下に紹會せらる其の全文を左に掲ぐ。

#### 維新の史蹟萩町に新名所

長州の萩！かう聞いただけで、人々は明治維新の歴史を聯想する。そこには松陰神社があり、松下村塾がある。乃木大將が學んでゐられた玉木文之進の舊宅もあれば高杉晋作、木戸孝允、伊藤博文、山縣有朋、品川彌二郎等の舊宅も残つてゐる。一木一草盡く明治維新の風雲を物語つてゐると云つても過言でない。だがこの萩町は、ただに史蹟として有名であるばかりでなく、一度こゝに遊んだものは、誰しもその風景の凡ならざるに驚かされる、長門峽を以て

有名な阿武川が海に注がんとして二つの川にわかれ  
その抱いてゐる中洲こそ、萩町の城下である。松陰  
出生の地の椎原臺に登れば、萩の平野は一望に集り  
城跡の志都岐山を隔てた海上には緑したる島々が  
浮んでゐる。如何にも恍惚たる山水の眺めである。  
この史蹟と風光との外に、いま一つ旅行者を驚かす  
名所があることを、私は今度の旅行によつて知り得  
たのである。それは二百餘年の傳統の誇りを有して  
ゐる玉江浦の青年宿である。

#### 珍らしき漁村の社會組織

阿武川が二つに岐れて海に注ぐと云つたが、その西  
南の支川を橋本川と云つてゐる。この橋本川の洲口  
の左岸一帯に玉江浦と云ふ漁村がある。戸數は三百  
餘戸、部落を擧げて遠洋漁業に従事し、六人乗りの  
漁船六十餘隻を有しその漁獲高は一ケ年四十萬圓に  
達してゐる。この玉江の漁民が三人乗五隻を以て漁  
船隊を組織し初めて遠洋出漁を開始したのは、文化  
二年である云はれてゐるが、其後漁船漁具の改良  
から新漁場の發見に努め、今では朝鮮海上は固より  
南は臺灣海峡から北は沿海州の沿岸まで、我が物顔

に活躍してゐるらしい。

この漁村には、昔から船頭組と云ふのがあつて、大  
船頭二人を選擧する。その任期は二ケ年であるが、  
毎年一人づゝを選擧するから、最初の一年は副大船  
頭となり次の一年に初めて大船頭の正位に就くこと  
になつてゐる、この大船頭といふのは、この玉江部  
落の絶對の權威者であつて、漁場の選定から、出漁  
や賣捌の命令から、部落内一切のこと盡く、この大  
船頭の方寸に出づるのであつて、一切の部落民は、  
盡く絶對に服従する而も人格聲望による選擧が昔か  
ら行はれてゐたので、常に適任者を得て部落内如何  
にも美はしい輯睦の美風を現はしてゐる。この選擧  
は二百年に近き歴史を持つてゐるが、昔は船村即ち  
船頭だけで選擧してゐたが、今では乗組員まで選擧  
權が擴張されてゐる。傳統を維持しつゝ時勢と共に  
進んでゐることも見らるゝであらう

#### 四つの青年宿

この玉江浦の漁村は、上組、中間組、角屋組及下組  
の四部に分れてゐるが、その各部に一つづゝの青年  
宿がある、私も行つて見たが、十五六疊も敷けさう

な板の間が光るやうに拭き込んでゐる。そして壁に  
は後に記す様な心得書の板がさがつて居り、欄間に  
は田中大將の額などがかゝつてゐる、この宿こそは  
二百年の昔から連綿と續いてゐる青年の合宿所であ  
つて、この部落の青年で苟くも漁業に従事するもの  
は、二十五歳まで必ずこの宿にはいらなければなら  
ぬ。宿には宿頭と稱する今の青年團長があつて、是  
は青年たちの選擧によつてきまる。其の外に部落の  
最高權力者たる大船頭は、各宿毎に宿の親爺と稱す  
る監督者をおとなの中から任命する。之が今の指導  
者である。そして平素は、漁具の修繕其他漁業に關  
する各種の作業をこゝで教はつてゐる。そして漁民  
としての訓練を充分に受けることになつてゐる。最  
も活用された補習學校であり、訓練所である。

#### 驚く可き嚴正な規律

而かも驚いたことには、満二十歳以下は嚴格な禁酒  
禁煙が勵行され、二十歳以上と雖、規律は極めて嚴  
正であつて漁村の青年の動もすれば陥りやすき放埒  
な態度は絶對にない。朝鮮や臺灣あたりの港につい  
ても料理屋に行つたり、如何はしい處に行つたりす



るやうなことは絶対にない。近頃は遠洋漁業に出るときは本など澤山積み込んで行つて、洋上の讀書などが盛んに行はれてゐると云ふ話である。何うしてこんなにまで眞面目に行けるかといふ聞いて見ると、一生に一度大船頭になりたいと云ふのが、彼等最高の希望であつて、其の爲には、品行を慎み、眞面目に努力しなければ、それだけの聲望を勝ち得ないといふことが二百年に近い傳統からはつきりと感ぜられてゐるらしい。

### 『オシクラゴウ』

この青年たちの一年の間の最大の楽しみは、惠美須様のお祭の時の「オシクラゴウ」と云ふ大競漕會である。四つの宿から七人の選手が選み出され、白、青、赤、黄の色分けて、五丁櫓の和船競漕が、往復三里の海上に行はれる。漕ぐものは五人だが、一人は赤い衣服に黒襟をつけて采配を振つて指揮者となり、一人は板をたいて拍子を取る。そして漕ぎ手は白木綿の腹帯を締めてゐるが、往復三里の力漕に腹の皮の摩擦によつて、その白木綿に血がにじむと云ふ話である。この競漕は、毎年六月二日に行はれるが、翌

三日には、子若と稱する宿にはいつたばかりの少年たちが、惠比須様の神輿を舟中に奉じて三里の海上を漕ぎあつてくつになつてゐる。この「オシクラゴウ」こそは獨り青年と云はず、部落總動員の最も楽しい行事であることは勿論である。

### 在宿者心得書

前にも云つた通、各宿には、在宿者心得と云ふものが、板に書いてかけてある。何れの宿のも大同小異であるが、今角屋組の掲げて見よう。

### 在宿者心得

- 一、本宿の目的は義務教育を終りたる男子の漁業に従事する者に限る。漁業上必用の漁具の製作法及び漁具使用方法、其他練習せしめるを以て目的とする。
- 一、入宿者は親主若しくは長者の命に背かざる事
- 一、自分に出来得る者は自分にて作り、無益の物品を買ひ入れざる事。
- 一、年長者たる者猥りに年下の者を使はざる事。
- 一、在宿中の者は満二十歳以下の者は禁煙の事。
- 一、夜間をそく迄遊び他家の安眠を妨害せぬ事。

- 一、有罪者を退宿せしめる時は親主と相談の上船頭内に申出で退出する事。

- 一、當宿は満二十五歳以上にて退宿するものとす。

- 一、連中内にて成績良き者は模範として連中より相當の賞品を得る事。

- 一、秩序を守り禮儀を正しくし他人に迷惑の行爲ある可からず

- 一、朝早起すべき事。

- 一、内務取締は宿内の諸物品を一個たり共破損せざるよう注意し若し諸物品を猥りに取出し破損したるときは自作する事。

- 一、外務取締は宿外の事一般に注意し船のすねをろしの諸物品が破損したる時は宿頭と相談の上新調するものとす

會計二人 内務取締三人 外務取締二人 協行

會役員二人 青年訓練組長

青年宿と田中大將

昨年歿した田中大將がこの萩町の出身であることは今更云ふ迄もないが大將の別荘はこの橋本川の上流

で、玉江部落を去ること五六町の距離にある。さういふ關係からでもあらうが、同大將が歸郷の節はよく玉江浦に遊んで、この青年達の素朴な風に接するのを非常な楽しみとして居たらしい。政治家としての田中大將に對しては、餘り好感を持ち得なかつた筆者も、江上に舟を浮べて、郷黨の青年と談笑する大將に對しては、衷心の敬意を表せざるを得ない。

▼お断り 政治教育講話(其の三)は編纂の都合により次號に掲載す

## 産業

### ●度量衡器第一種取締

左記日割に依り執行することとせり脱檢者無き様留意ありたし

記

検査場 明倫小學校内有備館



日 割 受 檢 區 域

八月十六日 川島、土原、江向、河添、平安古、堀内

同 十七日 細工町、惠美須町、鹽屋町、樽屋町、  
今魚店町、北古萩町、米屋町、瓦町

同 十八日 西田町、東田町、吉田町、唐樋町、御  
許町、橋本町

同 十九日 南片河町、北片河町、古魚店町、油屋  
町、吳服町、吳服町一丁目、吳服町二  
丁目、春若町、南古萩町、上五間町、  
下五間町

同 二十日 東濱崎町、濱崎新町、津守町、古萩町  
今古萩町、熊谷町、濱崎町、香川津

同 二十一日 香川津を除く椿東一圓

同 二十二日 椿及山田一圓

### ● 船風の被害

七月十八日颱風襲來萩地方に於て被害を蒙りたるものは木間全區に渉れる稲作の一割減町内各所の蔬菜類約五千圓果樹類は比較的被害僅少にして最も慘烈を極めたるは遠洋に出漁中の漁船乗組員中死亡者及行衛不明者を合し越ヶ濱漁浦に十五名玉江浦に七名

の多きを見たる一事なりとす其の氏名及續柄左の如し

越ヶ濱 ○戸主熊藏弟阿部貞藏○戸主友吉長男河村七藏○戸主阿部仁五郎○戸主末竹熊吉○戸主阪本音吉○戸主末武倉松○戸主末武末松○戸主孫市長男末武正重○戸主市五郎弟藤田仁五郎○戸主楢本吉藏○戸主中谷市郎○戸主音松三男阿部幸一○戸主音松長男末武要藏○戸主楢本惣吉○戸主倉松弟末武清槌

玉江浦 ○戸主河村正一○戸主七五郎三男室本一吉○戸主梅吉三男西村七五郎○戸主上領作一○戸主虎吉長男福永明一○戸主波多野捨松○戸主ヨシ私生子藤崎久邇

### ● 水産會代議員選舉

七月十日午前八時より萩町立魚市場に於て本縣水産組合代議員の選舉を執行萩町内有權者は百十八名にして投票を行ひたる者百十四名なり因に阿武郡内の定員二名中萩町に於ける當選左の如し

濱崎町 齋藤五郎 作

### ● 阿武郡産牛畜産組

#### 合代議員選舉

七月三十日午前八時より午後三時迄町衙に於て選舉長代理福田町農會副會長選舉立會人山縣卯助、西山和一の兩名立會の下に投票を開始し午後三時投票所を閉鎖引續き開票の結果左記の者當選せり

山田第一區 原 嘉彦  
北木間區 中村 健一

### ● 産業に關する講演會

七月二十二日午後七時半より萩町公會堂に於て山口高等商業學校囑託講師木全省吾氏同校教授國吉省三氏を講師とし南洋經濟事情及不景氣對策に關し講演會を開催聴講者をして多大の感動を與へしめ午後十一時閉會せり

### ● 萩町設船舶職員養成講習會

七月六日より三十日迄二十五日間萩町公會堂に於て甲板部講師上村清香機關部講師田阪信一の兩氏を聘し小形船丙種運轉士同乙種二等運轉士沿岸丙種運轉士同乙種二等運轉士小形發動機船三等機關士沿岸發動機船三等機關士の養成講習會を開催講習修了生は甲板部四十八名機關部三十八名にして七月三十日午後四時終了式を舉行せり

### ● 船舶登録

熊本遞信局海事部に於て昭和五年四月中船舶原簿に登録せしもの、中萩町關係の分左の如し

| 船名    | 總噸數 | 所有者氏名 |
|-------|-----|-------|
| 第三愉久丸 | 五八  | 熊谷長之進 |
| 第五愉久丸 | 二七  | 全 人   |

### ● 商業登記

◎長門峽自動車株式會社



取締役監査役全員任期満了の所取締役厚東常吉、鈴木美徳監査役三輪録郎は昭和五年四月十五日重任し左の者新に取締役及監査役に就任す

取締役 郡司拾二老 監査役 鈴木 一郎

◎萩土地建物株式會社

取締役監査役全員任期満了の所取締役厚東常吉、鈴木美徳監査役三輪録郎は昭和五年四月十五日重任し左の者新に取締役及監査役に就任す

取締役 郡司拾二老 監査役 鈴木 一郎

●町立工業傳習所七月

中の状況

七月中注文件數二十六口 數量參百四拾點

注文品見積價格壹百七拾貳圓餘

主なる注文先 大連、安東縣、長春市場、大連輸入組合等

組合等

七月中製產高金七拾七圓拾八錢

原料購入高金壹百拾壹圓五拾壹錢

製作品賣却高金貳拾八圓拾錢

現金收入高金四拾七圓拾五錢

依託品高金貳拾圓九拾五錢

本年四月以降現狀

原料購入高金壹百七拾五圓五拾八錢

生産高金參百五拾五圓八拾八錢

製作品賣却代金貳百四拾五圓九拾七錢

現金收入高金四百四拾七圓五拾錢

依託品

前年度より越高金貳百四拾圓

本年度分金貳百貳拾圓

合計金四百六拾圓

七月まで一ヶ月平均

原料購入高 金四拾參圓八拾九錢五厘

生産高 金八拾八圓九拾七錢

製品賣上高 金六拾壹圓五拾錢弱

現金收入高 金壹百拾壹圓八拾七錢強

七月分仕拂歩合金拾四圓

本年四月より七月迄合計仕拂高金八拾七圓七拾四錢

●萩町農會記事

◎農事組合の設立 七月八日及九日の兩日に亘り大字山田の内殿河内並中河内に於て農談會を開催講師として町農會森田技手臨席左の通農事組合の設立を協定し其の事業始めとして石灰の共同購入を爲すこととせり

殿河内農事組合

一、七月八日組合設立

一、組合員數十九名

一、役員の氏名

顧問鈴木徳八 組合長山藤懋 副組合長池永舛槌

會計西山春一 評議員古屋吉二郎 山根熊一 西

山久良 門田長衛門 永尾市郎 小河内七介 購

買係池田豊一 販賣係藤田斌

中河内農事組合

一、七月九日組合設立

一、組合員數十六名

一、役員の氏名

顧問田村若松 組合長田屋清一 副組合長合計山

●七月中萩港輸出入貿易

萩税關支署調

輸 出

品名 噸 量 價 格 仕 向 地

杉丸太 二一五 三、一九一 關 東 州

青竹 二〇 一六〇 全

竹筴 二 一〇〇 全

草履 一 四七 全

魚罐詰 一 六六三 全

筍罐詰 一 一八二 全

其他品の 一八 八一二 全

合計 二六三 五、一五五

輸入無し

本年一月以降累計



|      |       |      |         |
|------|-------|------|---------|
| 輸出噸數 | 一、一八九 | 同上價格 | 二六、九一二圓 |
| 輸入噸數 | 五五    | 同上價格 | 二、四五七圓  |
| 合計   | 一、二四四 | 價格   | 二九、三六九圓 |

●町立萩魚市場賣買取扱高

昭和五年七月分

| 區分     | 本月分賣買取扱高  | 年度内累計     |
|--------|-----------|-----------|
| 萩魚市場   | 一八、七四〇〇〇  | 一五、九六四〇〇  |
| 越ヶ濱出張所 | 一五、七三、〇〇  | 七、八〇、〇〇   |
| 玉江出張所  | 七、七三、〇〇   | 三五、五四、〇〇  |
| 計      | 四二、二〇〇、〇〇 | 二七、四〇〇、〇〇 |

●七月中の氣象

|       |       |       |      |
|-------|-------|-------|------|
| 平均氣溫  | 最高氣溫  | 最低氣溫  | 雨雪量  |
| 二九度九二 | 三二度七三 | 二三度四七 | 八三厘五 |

●七月中風向觀測

|     |   |    |   |    |   |    |    |      |
|-----|---|----|---|----|---|----|----|------|
| 北北東 | 東 | 東南 | 南 | 南西 | 西 | 西北 | 靜穩 | 最多方向 |
| 一   | 一 | 一二 | 三 | 一  | 七 | 四  | 五  | 南東   |

●七月中天氣類別日數

| 種別 | 晴  | 曇 | 雪  | 霰 | 雹 | 霧 | 濃電 | 雷 | 地震 | 風暴 | 最高卅度以上 | 最低〇度以下 |
|----|----|---|----|---|---|---|----|---|----|----|--------|--------|
| 日數 | 七一 | 〇 | 一四 | 一 | 一 | 一 | 一  | 一 | 一  | 一  | 二八     | 一      |

●第一回滿州見本市便り

岩武萩町 技手

七月一日美禰線鐵道土砂崩壞の爲一行三人陸路小郡に出て乗車することゝし午前四時自動車にて出發す未だ見ぬ異郷の地を想ひ萩特産物販路擴張の方策を練りつゝ小郡に著き下關行の列車に乗車午前十時下關に著、改札口に於て櫻井縣屬、姫井出品團長達と會し打連れ先づ鮮満案内所を訪れ豫備智識を得る爲小冊子の配布を受け周遊切符其の他の世話をして戴いた

今回萩町より出品物の内相當契約の出来るものは夏蜜柑及全製品マーマレードであると目を付けて居た

所が夏蜜柑は既に出荷終了の時機でありマーマレードは出發前三井物産と一手取引契約が成立した爲何れも今回の契約品中に入らぬので落膽した然し今回の見本市行の目的は契約高の如何でなく萩町の物産をより多く紹介し何れの手からでも成るべく多く輸出せしむるのが主眼であると思ひ成澤技手より紹介狀を貰つて居たので約一時間半を利用し三井物産門司支店を訪れた。全店食料品部長に來意を告ぐると心良く種々の話を承り萬事は大連支店と打合はせよと紹介狀を頂いた其の際話の中に此の事業は非常に有望である然し他に競争者が出で數軒の同職が出来る様になれば決して利益にならぬ此の點に注意し町の應援方を依頼された蓋し當を得た言葉である爾來萩町に於て事業の發展しないのは一つ宜い事業が見付かれれば蟻の甘きに寄る如く共喰ひする傾向がある爲であると或る人は評して居たことを思ひ出し吾が萩町發展上大に考へなければならぬと思つた此の根性を持つ者があれば必ず捨つべきである流るゝ汗を拭ひつゝ大急ぎで税關検査を済ませアメリカ丸に乗船した六千噸級の船で萩寄港の船とは一寸太い斯様

な船が數隻寄港して居る何日になれば萩港に斯の如く林立する橋を見らるゝかは暗然同様である然し大海も一滴の水からだ今日の努力はやがて巨大な船が毎日見らるゝ様になれるものと自ら慰め船室に入る船室は出品者の爲全部満員、山口縣出品團は二等娛樂室を充てられて居た娛樂室とは如何にも宜い様聞ゆるが食堂側の細長き一室で十三人が鹽鯖を並べた様に詰め込まれた是で二等の料金を取るなんて無茶だとの聲が方々から聞へる休んで見ると案外涼しく樂だ食堂がすぐ側故食事は先頭第一御餘り頂戴をせず濟む各所に通信を爲し風呂に入る眞水湯としてあるが塩鹹い然し船中の風呂は始めての事故珍しかつた夕食後一同今後の行動を打合はせ十時頃寢に就く七月二日平隱なる海上の一夜は明けた皆元氣である船が太いのと波が靜なので海上に寝た様な氣がしない目を醒して始めて船中だと氣付く平和な航海である今日も午前中大連著後の協議會を開く今迄大連輸入組合、滿鐵社員消費組合等と取引しつゝある出品人は一人も無い從て取引の狀況運賃關係もあまり判らない様子である、此の點吾々萩町出品者は鼻が高



い譯である是等は皆在滿萩町先輩の御蔭で大いに感謝する譯である、櫻井屬が船客名簿に依りハルビン商品陳列館長森御蔭氏を見付けられ一行の爲北滿事情の講話を依頼され一同卓を圍み御高話を拜聴した北滿の輸入額は二億圓に達し内約五割五分は内地品にて占め米、英、獨、之に次ぐ萩町出品物に就き左の通り意見があつた

(陶器)主として硬質陶器を用ひ名古屋方面の安價なる物輸入せらる現今は鮮滿地方に於て相當製造を見内地品の漸次壓迫さるゝ状態にある購入先の主なるものは日本陶器、硬質陶器、淺井、大連各陶器會社製品にして模様も派手なるものを嬉ばる萩焼も價格の如何によりては見込あらん

(海産物)支那人向罐詰、キンコ等の輸入多し

(材木)建築用材は不向なるも足場丸太は相當見込あり

(夏蜜柑)果物類は近時一般に歡迎さる輸送方法を考慮し大に輸出に努力すべき好物産である

(竹製品)堅牢を旨とし値段を安くすれば相當進出の見込あり竹箒も價格如何に依り相當輸出の可能あり

りと思料せらる

(玩具)動物、人形等嬉ばる玩具の輸入量年額百二十萬圓に達す

(筍梅干)筍の罐詰は南支那方面より輸入せらる内地品も冬營材料として見込あり

(其の他)價格如何に依り何れも見込あるべし以上の如く何れも全地方向として輸出の可能あるも目下銀暴落の爲支那人の購買力減少し價格の點に付相當勉強するの覺悟を要す。教育材料、文房具等將來見込大なり二十萬の英靈と數十億の國幣を犠牲とせる滿洲に對し今少し内地人の注意を喚起し度は非ハルビンを調査せよと結び講話を止めらる。

因に全陳列館は内地商品販賣斡旋所の如き事業をせらるゝに付左記宛見本の送附をなせば斡旋せらるゝ筈なり

通信の場合、滿州長春商通氣附

ハルビン商品陳列館宛

見本送附の場合、滿州長春國際の運輸株式會社氣附

ハルビン商品陳列館宛

七月三日 午前四時汽笛に目を醒す船は時々異様な

唸り聲を挙げ除行して居る數分の後遂に動かなくなつた一同心配し甲板に出ると一面の濃霧だ急ぐ旅行

に五時間も滞在させられうんざりする十時頃霧も少々霽れ船も動き出した附近を見ると近くに二隻の汽船が同じ濃霧の爲停船して居た双方動いて居たならば或はと思ふと停船の不平も霧と共に消れ去つた

午後二時半大連港外にて一隻のジャンクを見付け數分の後檢疫を受ける爲停船す形式ばかりの調べが済み三時船は悠々大連港に入り阜頭に横付となる棧橋は出迎人で一杯である大阪其の他各所には歡迎の旗を立て優勢なのに山口縣の其れらしきものが見えなかつたのは心細い氣がした甲板に橋が掛けられ一同小雨の降る中を三日間馴染の深き船と別れを惜しみつゝ上陸した

聯合會理事の神成氏大連輸入組合の澤田氏待合室にて一行を歡迎せられた

東洋一の大連阜頭岸壁の延長實に一萬四千尺にして工費七十萬圓を投じ五千坪五千人の收容能力を有する船客待合室は其の設備實に至れり盡せりである二十年前に大連を見たる人今日の阜頭に立てば其

の異常なる發展振りに感嘆するであらう、大連は滿州の門戸に當り戸數四一、二八四人口二一七、四八〇、近代的大都市である

阜頭前を埋むる馬車、人力車に驚きつゝ電車にて所定の宿に著く船以上の滿員で暑く暗くとても我慢が出来ないので四人許り他に移ることゝし抽籤の結果吾々四名三杉旅館に居を移した一等旅館から三等旅館へ見へはあまり良くないが中々親切な宿だ一同圓な夢を結ぶ

七月四日早朝より會場の下見に出掛く陳列は明日から取掛ることに決定す取引其の他に關し打合せを爲し午後は一同車を連ね滿州鐵道會社、全消費組合本部、民政署、大連商業會議所等を訪問し敬意を表す民政署長は吾山口縣柳井町の出身一行を電氣遊園に案内され支那料理の饗應に預る。

七月五日 朝から會場にて荷物の解裝陳列に大童となる午後四時一先づ陳列を終る萩町の陳列場所は丁度廊下を利用して居た爲陳列したものゝを更に室内に運ばねばならぬ内地ならばそんな事は無いが支那苦力を使用する全地では止むを得ない開會の朝又陳



列しかへねばならぬかと思ふと情けなくなる前田六郎氏、原田藤吉氏の盡力は涙ぐましくものであつた七月六日 今日は大分旅順戦跡見物に出掛けた様子であるが一軒でも多く得意を取らねばならぬ關係上有力商店の訪問をなす一時過商工課長出向の爲阜頭に行く大島甲槌氏も同船して居られたので會期中の御助力を依頼す

午後四時迄大島氏から電話、直ちに仕度をなし訪れる、全氏は大連、ロシア町一千戸の區長をして居られ中々多忙の様子廣々とした邸宅には杉丸太が所狭き迄置かれてある是が紀州丸太彼が長州丸太と一々説明さる

邸宅後方の斜面に葵が一面に植われ草一本も無い程手入が届いて居る、大の愛犬家で狆が四五匹葵の下で遊んで居る。

奥様の腕になる丁重なる御仕饗と氏一流の卓越せる御意見、時間の経つのも覺えず灯がついて二時間の後全氏の懇意なる店へ吾々を紹介せらるゝ爲同道し全家を辭す

長途の旅の疲れも厭はれず御努力下さる氏の心情

を思へば是非秋物産を多く輸出し報ひ度いと心が一ぱいになる一度故郷を去れば故郷を忘るゝ輩の多い今日心から秋町の爲努力せらるゝ氏に對し遙に紙上に御健闘を祈り謝意を表す

四五軒食料品店を訪問せし所銀相場の關係上支那人の購買力弱く買人氣少く筍罐詰の如き相當値開きあり會期中に於ける契約益々あやしくなる、何れ會場で見本を見て云ふ挨拶を受けつゝ十二時頃宿に歸る少しも契約が無い様では歸つて顔向けが出来ぬと心配しつゝ寢に就く原田君の心情も同じであつたことと思ふ。

七月七日 愈々見本市蓋開けの日である大箱入一千個約二十噸の出品物は第一會場、第二會場共所狭き迄陳列された參觀者は南北滿洲南支那在住の日支商人約一千名九時開場と共に相當入場者あり十一時頃會場満員となる何處を見てもあまり契約が出来る様子も無い

奈古村出身の中村氏、萩橋本町出身の重枝氏尋ねて來らる全氏達の契約を皮切りにポツ／＼契約あり同じ買上は國の産物をと心掛けて居らるゝ在滿先輩の愉快である。

心情實に有り難い出品者の内で通譯、給仕を備つて居る所もあるが秋町は前田氏に通譯を依頼し吾々二名は給仕の積りで働く今日の契約高約五百圓此の分ならば漸く愁眉を開く

七月八日 今日朝から相當の觀覽者で満員だ品物の説明に多忙を極む餘り多忙な時は御客さん氣の毒に思つてか名刺カタログを要求さるゝ出品者の名刺を持つて來なかつたのは大失敗、自分の名刺を出し今後萬事は役場の方へ照會下さいと御願ひすることにした斯様に多くの品を依託し名刺位一所に送らねばと前田、原田兩氏大噴慨小言が出る然し小言が出ぬ様な閑散よりは張合が有つて宜い

秋町の手不足は得意を大分逃した當方に見込を付けた客の名刺は可成頂戴することに心掛けたが後から其の宿へ押かけ相談の御願ひすることが出來ぬ大阪方面商人は二人御出張し一人は會場で説明他の一人は見込を付けた客の後を訪問し談判する等抜目が無い來るべき第二回滿州見本市には是非多數を出品し出品者は全部付いて行かるゝ様したいものである貰つた名刺を頼りに夜間訪問し契約をなすときは實に

今日の景氣では竹箒大分大口の需要ある様子ワザ／＼滿州迄出て來た甲斐の有りしことを感謝し夜の在滿縣人會、出品者合同懇親會へ臨む同し卓に岩國の出身者でも大連民政署長前大連取引所長田中喜介氏が居られたので南滿電氣株式會社取締役宛紹介狀を戴く秋出身の田中知平氏も同席せられた氏は目下輸入商で成功して居らるゝ由一度訪ぬる様云はれたが時間の關係上残念ながら伺ふことが出来なかつた七月八日 今日最後の日である入場者又相當あり前日全様説明に逐はる今日は客の宿で大分商談が運ばるゝ様子であるが手不足の爲氣が付きながらも場外へ出る事が出來ず獨り氣をもむ、三日間の入場者延人員八千五百名にして午後六時より報告會が開かれた神成理事長の経過報告があり後援者として滿鐵武部殖産部長の挨拶に次で出品者總代として鈴木大阪市調査課長の答辭あり午後七時見本市の幕を閉づ今期中秋町の契約高雜貨壹千六百圓木竹材四千五百圓口數約三十五名で縣としては吾が秋町が最も成績可良とのことである會全体としても口數の割合契



約高はあまり多く無かつた様である  
満州殊に奥地満州の四十名の歡客を得たことは今回の見本市の賜で今後製造者各位の努力で益々増加も出來得ると思ふ今回の見本取引に過ぎぬ要は生産者各位の今後の努力如何にあるのだ大奮發を望む次第である。

七月十日 午前中は品物を一般へ公開せらる其の暇を利用し大島甲槌氏に案内せられ田中喜介氏の紹介状を持ちて滿電會社を訪問す年間五六千本以上竹箒を使用する全會社への納入は製造者の努力次第で可能性が充分ある向ふの見本を見御希望を聞き改めて見本を送附することとし全社を辭す大連市連鎖商街を視察し世界最新式の下水溝設備を見る比較的低廉なる費用にて排水も可良路面の極限使用流石は世界最新式だ萩町等の狭き街路には持つて來いの下水溝である何時迄も昔の方法を固守せず調査の上是非改良され度いと大島氏は言を盡し詳細に説明された近代的都市大連は都市計畫上委員及土木課員の視察は萩町百年の大計を樹立するに必要である  
午後は殘品の整理荷造に汗を流す。

七月十一日 消費組合本部、輸入組合へ歸萩の挨拶に行く數回の訪問で大分親しくなつた消費組合では來年の夏蜜柑を是非多く購入し度い契約方法を大連沖渡しとすれば今より三四千籠の豫約をしても宜いと云はれたが何分歸萩の上で玩具部へ玩具の寄贈見本を置き取引方を依頼し辭去す到る所町長へ宣敷くと傳言あり町長の御努力も大分大連方面へ知られ心強く思つた

午後は大急ぎで旅順を視察す日露戦争の當時二〇三高地の激戦を憶ひ午後六時大連に歸り九時發奉天行の汽車で全地に別れを告ぐ  
驛に大島甲槌氏、神成理事長、大野氏等見送りに來らる連日の御盡力を謝し車中の人となる忙しかつた大連の數日、亦再び見ゆることも如何と思へば名殘惜しい。

七月十二日 早朝奉天著秋田商會奉天支店を訪し全地視察の後急行にて撫順の露天堀、採油工場を見學再び夜行列車に乗る

七月十三日 安東縣著後萩町出身者重枝洋行を訪問す安東縣は人口約二十萬吾々想像以上の都市である

氏の案内にて市内各所を見物し鴨綠江を渡り新義州を見物す元町助役福田茂穂氏を訪問せし所不在中に付奥様に意を傳へ安東に引返す  
安東に於ける重枝氏の御歡待は一行旅行中忘れ難いものであつた見送り税關に對する注意等實に行届いた歡待振り肉親も及ばぬ程である全氏は安東にて青物市場を経営され食料品問屋の第一人者である二十年前裸一貫眞の無一文で萩を飛び出し刻苦勉勵今日を築かれた町出身在滿成功者の一人で萩橋本の出身である

七月十四日 三晩續く夜行で体は極度に疲勞し平壤で下車したが市街見物の元氣も無い電車で牡丹台を見物し汽車にて京城に向ふ途中汽車は誤り一人を轢殺し約二十分停車夫れより二時間の後水害の爲通過不可能とのことで亦三時間停車十二時頃漸く京城に著く

七月十五日 長途の旅行と續く夜行の爲宿で十時頃迄覺えず朝寢をする朝鮮神社、京城青物市場等視察の後總督府に石田技師を訪ね敬意を表す全氏は何時もながらの元氣で大に昔を話さる

朝鮮首都たる京城も矢張り不景氣で本町通りは相當人出はあるが買手は割合少ないやうである深刻なる不景氣何處でも青臭吐臭だ十時京城を出發南京蟲に喰はれつゝ釜山著直ちに連絡船にて下關に向ふ途中汽車の都合で厚狹町に一泊十七日午後四時無事旅装を解く

見本市出品物中萩町のものは概して高いと云ふ評判が聞へた此の原因は幾らもあるが能率があがらぬ爲工賃が比較的高い爲ではあるまいか今日の支那では勞賃一日内地貨の三十錢内外で働き手はいくらでもあると云ふ状況である人力車等も普通の所は殆んど十錢均一で今では人と機械と競争して居る夫れ故機械を使ふよりも支那人を使ふ方が安く上ると云つて居る程勞賃が安い

支那人の良く働くことは御承知の通りで衣食住を念頭に置かず働いている雨の降る日内地人の露店商人は久し振りの雨で一杯傾けて居るが支那露店商人は仕事が出来ぬので食はず寝て居るものことである食事も殆んど二食で晝は胡瓜等を食つて濟せ一日十錢位で經濟が立つ等實に内地と比べられぬ程簡單であ



朝鮮人は金を多く與ふると働かぬが支那人は食を多く與ふると働かないと蓋し適評である斯る人は競争するのであるから堅き決心が必要である、それと支那の物價の高低は固より銀相場に關係し朝夕物價に變動がある國故日々の銀相場に注意することを忘れてはならぬ、吾が萩町の將來目を付くる方面は何と云つても滿州支那方面である詳細に調査すれば萩地方の產物は何れも彼地へ輸出品として恰適である要は只加工賃の低下と荷造力法の改良並運賃の低下である第二回滿州見本市は來春二三月の豫定である次回は是非一般營業者の視察を兼ねたる出張を爲し販路擴張に勉め產物の増加を圖り以て大萩市建設に努力すへきである 完

### ●臺灣を中心としての水産業

在基隆 小林 壽一

私は今回臺灣一部の水産狀況を視察するの機會を得幸ひ多數の學友知人と會談し或は親しく實見した所

謂見聞に感想を加味して茲に秃筆を弄し御參考の一端に供せむとする次第である

□通常臺灣と謂ふは澎湖島及臺灣本島の二島より成り其の面積本島は二千三百八十八方里南北約百里東西最廣部約四十里に及び周圍二百九十里其の附屬島は面積約六方里周圍二十五里餘なり、澎湖島は臺灣水道に介在する六十有餘の群島にして面積僅に八方里周圍八十三里に過ぎず以上總面積は二千三百三十三方里にして略九州に相當すれ共沿岸の屈曲乏しく其の海岸線は面積に比し比較的短かく澎湖列島其の他の附屬島を合し約三百九十九里あるのみ

□臺灣の地勢を見るに中央山脈は東方に偏して南北に流れ、全島を東西の兩部に縦斷す東海中室蘭、花蓮港海岸は斷崖絶壁相連り崢嶸たる山脈は直ちに海岸に迫り殆んど平野を見ず従つて東岸一帯は一の蘇澳を除き良港灣に乏しく臺東花蓮港の如き定期船の寄港なるも季節風期は風波高く陸上との連絡不能なること屢々なり東岸唯一の良港蘇澳は其の北灣十尋内外の水深を有し南東以外の風害を免れ灣内に岩礁あるを以て大正十二年六月其の南灣南方澳に漁

港を築設し一般漁船の碇泊全く安全となれり。

西岸は一般に砂濱を爲し海水淺く傾斜極めて緩に又臺中、臺南の各洲沿岸には多數の鹽田養魚地點在す年々西海岸各河川より吐出する砂泥と季節風と相俟ちて沿岸各浦地の地形を變動せしむるを以て南に高雄の良港ある外大船の出入に便なる港灣に乏しく戎克船として舊港中港後瀧廉港、東石、布袋、安平、東港あるも滿潮時に非ざれば出入安全ならざるもの多し就中安平は古來支那貿易の要津として知られしも現時は港内水淺く逐年衰漁の傾きあり淡水は滿潮時に際し千八百噸級汽船の入港に可なるも淡水河口に在りて漸次砂泥堆積し其の價値を減じつゝあり南部大柏城は海上較口靜隱にして捕鯨根據地たり其の他之に近く西岸に位する海岸には定期船の寄港する所なく澎湖島媽宮は天然の良港を以て目せらる畢竟本島の良港としては基隆、高雄の二港に過ぎず領有當時に在りては基隆は防波の設備無く灣内水淺くして大船の出入に適せず高雄は防風上理想的地形を爲せども水甚だ淺く港口又狹かりしが明治三十二年を以て港内の浚渫を開始し漸次工事を進め内港防波堤

の築造起重機、基隆停車場連絡鐵道線の設備、市街運河開鑿等完成し現に多數大船舶の碇泊を見るに至り一方北部漁業の中心地として年々發動機漁船及戎克船を増加し漸次漁港としての設備をも必要と爲すに至れり。高雄は明治四十一年中工事に著手し目下尙經續中にして現に港口の岩礁は之を除去し其の他繫船浮標、岸壁倉庫、起重機等の設備成るに至れり本島の附屬島嶼十四中周圍一里以上に及ぶもの基隆港口に基隆島及社寮島あり後者は周圍約一里南側には本島人及冲繩縣人の部落あり

彰化嶼は基隆港口を去る北東三十三里餘周圍一里三町光達距離三十里の一等燈臺あり鯉レンコ等の漁場圈内に屬するも漁船の避泊に便なる錨地を有せず龜山島は蘇澳三貂角間の海上に在りて周圍二里八町人口五百餘純然たる漁村を爲す海岸は急傾斜にして碇泊地に乏し  
火燒島は臺東の東方約十七里周圍約五町面積約一、八方里人口一千五百餘住民は往時宗州より移住せる支那人なり中寮灣及南寮灣の錨地ありて沿岸には飛魚鰵底魚の魚族多く又夜光貝を産し近海には鯉の洄



游少なからず

紅頭嶼は臺東の南東四十八哩周圍九里二十八町面積二、九七方里附屬島中最大なるものにして東清灣及矢代灣の錨地あり島民はヤミ族にして体軀矮小性質溫順快活なり南方約七哩を隔て、小紅頭嶼あり周圍一里九町なり小琉球嶼は島南、東港沿岸を去る約七哩周圍三里一町海岸珊瑚礁羅列するも港灣なく漁船の出入不便なり

口氣象 季節風は九月より翌年三月迄の間強く殊に北部に著しく近海爲に風波高く出漁困難なり然れども偶々支那大陸に低氣壓發生し日本海方面を通過することあれば季節風全く消滅し臺灣北部は天氣清朗氣温上昇す特に北部は水蒸氣を含める東北季節風が基隆一帯の山脈に衝突して霖雨積日に互り北部の所謂雨季(自十月至三月)となり基隆附近最も甚だしく此の間の降雨量は全年總雨量の約七分を占む既往二十箇年の平均を見るに基隆に於ける全年總雨量は二千九百十八耗降雨日數二百十八日風速十米突以上に及び日數百十日を算す雨季以外は天氣一般に清朗にして南風多く海上平穩なれども八九月の頃は往々颱風

風の襲來を見る南部の冬季は乾燥期にして好天氣なるも五月より九月に至る間は風力弱く一般に降雨多量なり若し夫れ颱風の襲來あらんか豪雨覆盆一日にして數百耗の雨量を測り全年總雨量の約八分を占むことあり南部臺灣の平均は一年の總雨量千七百十五耗七降雨日數百九日風速十米以上の日數六十四日に及べり

本島は所謂颱風の進路に當り年々之が襲撃を被らざることなく本島近海に現はれたる颱風に付既往八箇年の平均回數は年十回にして八月の頃最も多く九月之に次ぐ其の進行も方向は北西に向つて本島を横斷し若は南端或は北端を掠めて通過し支那大陸に向つて去るもの多く且つ最も猛烈なり其の進行速度は一定ならざるも本島近海に於ては一時間に早きは十五哩遅きは七哩にして平均十一哩なり之を南地南海岸を襲撃する暴風に比すれば約三分の一の速度にして其の進行極めて遲緩なり

口漁業 本島は亞熱帶區に屬し北西に面する海區は對岸迄百尋線を見ずと島東南海面は一帯に深くして百尋線岸に迫る依て之に棲息來游する魚族の種類

も其の線を異にし沿岸は概して黒潮流域下に在ると雖秋冬の候、北東季節風卓越に於て北東海區は東支那海の壓流を受け夏季西南海區は南西季節風連吹し之に依りて生ずる南流は對岸東大島迄及ぶことあり依て北部海面は秋冬一体浪高く夏季南西部海面高潮を呈す

北部海面は鯛族鯉鮪カヂキの好漁場にして東部南部海面には鯉助魚惣田鯉鯛飛魚鱸等の洄游あり西部海面は一体に淺海にして干瀉の發達著しきに依り古くより竹筏漁業主として行はれボラブリ鯛の來游あり本島領有以前は専ら沿岸雜漁業を主とし竹筏又は小型漁船に依る漁業たりしも現在捕鯨船二隻機關船四百九十八隻木造船四、三三五竹筏六、三六五に達せり漁業は釣漁業及網漁業に大別し得べく鯛連子鯛鮪旗魚鱸漁業は前者に依りて行はれ惣田鯉鯛飛魚ブリ及鰯漁業は主として後者に依りて行はる而して天候海潮流底質等の關係上釣漁業を發達せしめ網漁業として主なるものには鯉待網及鰯焚寄網あり

口機船底曳網漁業 は大正九年小型機船に依り手繰網を使用せるを以て嚆矢とす然れども底質海潮流等

の關係は小型船を以てしては經濟上有利なる漁業ならざるを識り中止するに至れり大正十二年總督府及臺北洲に於て大型船に依る本漁業の試験を民間に委託し支那東海區及澎湖島南西海區に於て從業の結果極めて有望なることを立證し企業經營を策するもの續出したるを以て總督府に於ては水産物の蕃殖保護並に沿岸漁業の見地より先に船型及船數を制限し更に取締規則を制定してトロール漁業と共通の禁止區域を設くることゝ爲り臺灣海峽以南の海面には現在出漁船數も基隆を根據とし支那東海を操業區域とする本漁業從業船は現在三十四五組に達し已往の成績極めて良好にして毎航海一千箱四万斤價格壹萬圓内外の漁獲ありしと聞く然れ共向後は南支那以南の新漁場の開拓を必要とするは漁場衰廢の必然的に迫る道程にして本漁業の現在では毎月二航海從業し周年操業の可能性あり漁獲物は連子、エビス、血子、鱸エゾ、金頭、大刀魚、ニベ等とす

口鰯漁業 本島に於ける重要な漁業にして明治四十二年創業以來漸次隆盛となり大正十四年の從業船は二十六隻にして本島北東部海面を主要漁場とし更



に遠く宮古群島、尖角列島、小焼島、紅頭嶼方面に出漁す漁船は七八十馬力級を主とし漁期は三月乃至十月とす大正十三年以來冬季高雄州沖合に本漁業を試みるものあり近時一箇年を通じ此の方面の本漁業を企劃せむとする機運に到達しつゝあり大正十四年以來の漁獲高は毎年百五拾萬圓以上に昇れり餌料は背黒鰻を主としキビ、ナゴ、ウルメ、鰻、アジ等なり

□鮪旗魚鰻漁業 本漁業は大正二年夏期總督府試驗船に依りて創始せられ更に今年十月南部海面に之を試み是亦好成績を挙げたりしを以て爾來之が漁業の普及に努めたる結果逐年其の船數を増加せり大正八年鮪旗魚移出の途開くるに至り本漁業は益々盛大になり大正十四年に於ては總漁獲高百七十五萬圓に達するに至れり近時北部に於ける本漁場は蘇澳、澎佳嶼沖合より尖角列島を主とし南部に於ては高雄以西三四十哩の南西百哩に至る海面を主とするも更に南方バタン列島よりフイリツピン近海に及ばんとしつゝあり漁期は周年なるも就中十月乃至五月の候最も盛況を呈し餌料は鮪、鰻、鰺等とす現在發動機は漁

船數約二百隻其の他高雄には肩巾八尺内外の帆船約四十隻あり

□鯛船業 本漁業は古來本島沿岸並に澎湖島沿岸地方に於て行はれしも本島領有後内地漁業者の渡來と共に漸次漁具漁法に改良を加へ漁獲高増加せり本魚は全島沿岸各地に棲息するも基隆、淡水、新竹、高雄澎湖島地方沿岸最豐多なり漁期は北部は冬季、南部は春季を以て盛漁季節とす從來本漁業の漁船は内地人に在りては肩巾四、五、六の小帆船にして本島漁民は支那型船を使用したりしが近時淡水及新竹下根授のものは十馬力内外の小型發動機船を用ふるもの續出し澎湖島及高雄、根授のものは十五馬力乃至三十馬力の發動機船を以てフォルモサバンクに出漁するもの多きを見るに至れり餌料は惣田鰻、烏賊、鰺、鰻等の切身肉を使用す

□其他の漁業 以上の外鰯流網、珊瑚、鰻待網、鰻焚寄網、大敷網、鰻、鰺、刺網、飛魚、流網、鰻空釣漁業等あるも更に詳述の機會あるを以て省畧す

□製造業 水産製造業は鰻節、鰻、鰺、カラスミ、煮乾鰻、各種鹽乾品、罐詰類、塩辛類及蒲鉾あれ共

### ●陸軍在郷將校叙位

河添第二區陸軍歩兵中佐 松本 忠造  
昭和五年四月廿四日付正五位に叙せらる  
香川津西區陸軍砲兵少佐 久保田榮助  
同年同月同日正六位に叙せらる

### ●現役兵滿期者

七月十日歩兵第四十二聯隊より現役滿期となり歸郷したる者左の如し

| 西田町區     | 東田町第一區  | 上野區      | 越ヶ濱第四區   | 全 第六區    | 無田ヶ原區    | 越ヶ濱第六區   | 沖原區      | 笠屋區      |
|----------|---------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 歩上 福田 政助 | 全 村上 正武 | 全 森田 吉三郎 | 歩一 白石 梅男 | 全 山下 松次郎 | 歩上 大村 武一 | 歩一 石飛 倉松 | 歩上 池田 由之 | 全 佐々木 一清 |

## 軍 事

就中、鰻節の製造と蒲鉾は最も將來ある事業にして蒲鉾産額の如き萩町年産額の四分之一即ち全島年産額十萬圓餘而も原料豊産廉價、蒲鉾の需要はテンブラ竹輪等ならば全島人に需用あり萩町當業者の進む可き新天地なりと思料す

□感想 世を擧げて財界不況の析柄比較的其の影響尠きは臺灣の如き殖民地にありと信ず而し未だ開拓の餘地乃至未開の有利事業地に手足を延ばすに利便多く殊に水産業の如き農業のそれと異り水族の寶庫を求めて進まざれば嘗に近海の荒廢漁場を座喰廢滅に致さしむるのみ然れ共此の遠洋漁業たるや力強き團結と當局の絶大なる後援に固らざれば其の目的を達成すること至難なるべし幸ひ萩町當局は此の方面に多分の理解ある次第なれば當業者諸君よ覺醒以て決心し自然より成る廣漠の寶庫にまで進出せられむことを切望するものなり(完)



全 中村三郎  
大谷區 全 齋藤久義  
木間區 歩一 坂本良助  
七月十日朝鮮龍山衛戍病院より現役満期となり歸郷したる者左の如し  
堀内第二區 一看卒 宮本定雄  
無田ヶ原區 全 田中章夫  
七月十日廣島衛戍病院より現役満期となり歸郷したる者左の如し  
沖原區 中村二郎  
七月十日山口衛戍病院より現役満期となり歸郷したる者左の如し 戸村政一

### ●勤務演習及教育召集

八月一日より九十日間歩兵第四十二聯隊へ教育の爲召集を令せられたる者左の如し  
山田第一區 第一補充兵役歩兵 時山義彦  
八月一日より二十一日間野砲兵第五聯隊へ勤務演習

の爲召集を令せられたる者左の如し

津守町區 豫砲伍 矢田正一郎  
玉江浦第一區 後砲伍 山本義男  
笠屋區 後砲伍 楊井一松  
青海區 後砲上 中村吉郎  
米屋町區 全 溝部万一  
濱崎町第四區 全 大島五郎吉  
玉江浦第一區 後砲上 永富英雄  
土原第三區 後砲一 來原吉藏  
八月一日より二十一日間輜重兵第五大隊へ演習の爲召集を令せられたる者左の如し  
椎原區 豫輜一 齋藤武雄  
小畑第一區 豫輜二 杉村正輔  
八月三十日より二十一日間下關重砲兵聯隊へ演習の爲召集せられたる者左の如し  
山田第一區 後砲上 藤田武  
川島第二區 後砲上 藤山榮八  
土原第二區 後砲上 白石友助  
八月二十三日より二十一日間電信第二聯隊へ演習の爲召集を令せられたる者左の如し

### 平安古町第一區

豫工上 羽 勝

八月二十七日より二十一日間歩兵第四十二聯隊へ演習の爲召集を令せられたる者左の如し

濱崎新町第一區 一補歩二 田中徳一  
倉江區 全 山根義雄  
中の倉第一區 全 河瀬末次郎  
東濱崎町第一區 全 細田源一

### ●陸軍將校生徒募集

五月二十二日陸軍省告示第十七号を以て昭和六年度召集すべき陸軍生徒の員數（陸軍士官學校豫科生徒約三一五名陸軍幼年學校生徒約五〇名）及志願者心得を公示せらる詳細は町役場兵事課に就き承合され

### ●海軍生徒募集

七月一日海軍省告示第四号を以て昭和六年召集すべき海軍生徒の員數（海軍兵學校一三〇名海軍機關學

校四〇名海軍經理學校一五名）及志願者心得を公示せらる詳細は町役場兵事課に就き承合されし

### ●勤務演習召集に就て

◎七月二十八日陸軍省令第八號を以て本年九月一日以後に於て勤務演習に召集せらるべき者（令狀の交付を受けたると否とを問はず）に對しては本年に限り勤務演習召集を行はず但し特別大演習、師團對抗演習、師團秋季演習の爲召集せらるべき者及陸軍運輸部に召集せらるべき者並に陸軍補充令第二百二十八條又は同第二百二十九條の規定に依り召集せらるべき者は此の限に在らざる旨公布せらる

### ●戦病死者遺族及公傷兵慰安會

帝國軍人後援會萩町婦人團の主催にて七月二十七日午後八時より萩町公會堂に於て戦病死者遺族并公傷兵の慰安會を開催婦人團員約千名遺族公傷兵百餘名



來賓五十名の出席あり團長代理林町長の挨拶ありて  
茶菓を供し餘興として筑前琵琶謠仕舞手踊三曲合奏  
長唄等を催し頗る盛會裡に午後十一時終了せり

## 財政經濟

### ●萩町第一次家屋稅調查委員會

萩町定時第一次家屋稅調查委員會は七月二十二日町  
會議場に於て開會調查員全部出席町長より提出案件  
に付大綱を説明し次で岡田參與對委員會間に於て數回  
に涉り質疑應答あり議案審査の爲二十三日二十四日  
を休會二十五日より二十七日に至る三日間各調査擔  
當區に依り全員を委員とし任意に下調書を依り調査  
を爲すことを決定し最後の二十八日午後四時全員委  
員より提出したる修正案并に下調書を原案一括議題  
と爲し左の通決定せり  
金八拾貳萬九千參百貳拾七圓

昭和五年度萩町賃賃價格總額  
尙開會當日第二次家屋稅調查員二名選舉の結果左の  
通當選したり

山本 詩教  
大田 民藏

### ●萩町外勤書記勤務規程

昭和五年七月訓令稅第二、二六九號を以て左の規程  
を制定せり  
第一條 別表受持區域に外勤書記一名宛を配置す  
第二條 外勤書記の擔任すべき事務の概目左の如し  
一、構戶者の調査並戸數割賦課資料の蒐集及加除  
訂正  
二、家屋稅、營業稅、及雜種稅納稅者の調査  
三、國縣及町稅の納稅督勵  
四、町稅の滯納整理  
五、其の他稅務課主管の事務  
第三條 外勤書記は前條に定むるもの、外町役場の  
事務に關し知得したる事項あるときは其の概況を

遲滯なく町長に復命すべし  
第四條 外勤書記は其の執務に當りては常に懇切町  
寧を旨とし苟も吏員の體面を汚すが如き行爲なき  
ことを要す

外勤書記は執務の要旨を書留むる爲別紙第一號樣  
式の執務日誌を常時携行すべし

第五條 外勤書記は常時受持區域内を巡視し構戶者  
開廢業者及物件所有者の異同等調査を行ひ同時に  
賦課資料其の他の關係書類を加除訂正し課稅上遺  
漏なからしむることを要す

前項の外毎年四月及十月の各一日現在に依り受持  
區域内の戸數割納稅者に付定期の構戶調査を行ひ  
前項の例に依り之を處理すべし  
納稅者にして萩町内他の受持區域内に移動の者に  
在りては第一項の例に依り其の受持區域の外勤書  
記相互間に於て之を處理すべし

第六條 前條の調査に依り新に賦課を要するものに  
付ては一箇月毎に別紙第二號樣式に依り翌月五日  
迄に之を町長に復命すべし

第七條 町稅の滯納整理に付ては別に定むる受持區

域に依り之を行ひ遲滯なく其の事務を結了すべし  
第八條 滯納整理に當り假に納稅金を受領したる場  
合に於ては其の翌日迄に之を收入役に納付し其の  
領收證を保管すべし

第九條 滯納整理の狀況は一箇月毎に別紙第三號樣  
式に依り翌月五日迄に之を町長に復命すべし

第十條 會計年度出納閉鎖期に至り滯納整理未完結  
のものあるときは翌年度に繰越し徴收を爲すべき  
もの及缺損として處分すべきものを區分し一件書  
類と共に之を町長に提出し其の決裁を受くべし

別表 外勤書記受持區域

| 區名  | 受持區域                                                                                                        |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第一區 | 目代區、中津江區、上野區、椎原區、中ノ<br>倉第一區、全第二區、松本市區、船津區、<br>無田ヶ原區、土原第一區、全第二區、全第<br>三區、古萩町區、吉田町區、今古萩町區、川<br>島第一區、全第二區、全第三區 |
| 第二區 | 香川津東區、全西區、全南區、全北區、鶴<br>江第一區、全第二區、前小畑區、後地區、<br>小畑浦第一區、全第二區、後小畑區、濱崎<br>町第一區、全第二區、全第三區、全第四區、<br>東濱町第一區、全第二區    |



第三區

河內區、笠屋區、大屋區、沖原區、霧口區、  
金谷區、椿町區、雜式町區、濁淵區、青海  
區、橋本町區、御許町第一區、全第二區、  
唐樋町區、江向第一區、全第二區、全第三  
區、全第四區、東田町第一區、全第二區

第四區

山田第一區、全第二區、奧玉江第一區、全第二區、藤ヶ瀬區、玉江浦第一區、全第二區、倉江區、小原區、河添第一區、全第二區、平安古第一區、全第二區、堀内第一區、全第二區、

第五區

西田町區、瓦町區、米屋町區、戎町區、鹽  
屋町、細工町區、北古萩町第一區、北古萩  
町第二區、櫓屋町、今魚店町區、古魚店町、  
春若町、北片河町區、吳服町一丁目全二丁  
目油屋町區、南片河町、津守町區、態谷町區  
間町區、下五間町區、津守町區、態谷町區  
濱崎新丁第一區全第二區

第六區

越ヶ濱第一區、全第二區、全第三區、全第四區、全第五區、全第六區、東木間區、西木間區、北木間區

◎自轉車鑑札を無効と爲したるもの

七月中紛失及盜難の届出に依り新鑑札を交付し或は

— 49 —

程大きくなつたので勢ひ投書函の御用も増加するの  
が當然の様に思はるゝに一向閑散で開函する度毎に  
出て来るものは小石ばかり。是から見ると如何にも  
税務署の仕事に付ては、希望もなければ不平もない  
彼の如く立派に見へるが、然し所得税又は營業收益  
税の決定通知を受けられた直後に於ける税務署窓口  
の模様では滿更ら不平のない様にも見受けられない  
様にも思ふ一番酷いのは勝手に決めた税金じや納め  
てやらんと捨て言葉で引上げらるゝ人もあるが是等  
は税法を理解せられない人のことで一旦決定したら  
をい夫れど訂正の出来るものではない結局高ければ  
審査を求め訴願も訴訟も出来るのである亦其の年が  
過ぐれば減損更訂の途もある一應は是非共納めて置  
かねば濟まない然し納めたからと言ふても審査や更  
訂の結果では拂戻することになる、相手が國家である  
から納税資格が缺げればびた一厘も取りはせぬ内容  
を聞て腑に落ち兼ねるときは救済の手續を採れば好  
いのである何も肩肘張て窓口で言葉に角を立つる要  
があるかと謂ひ度くなる畢竟是等も平生からの不平  
の一部の露れではあるまいか。税務署と民間の隔り

の結果ではあるまいか今少しく税務署を地方化さして欲しい、民衆の税務署たらしめて欲しい決定通知を受けたとき丈け年に一度や三年に一度八ヶ間敷訴へに出る丈けでなく出来ることなら半期半期には實際の状況を聞かせて貰ひ解らない所は聞て貰ひ度い夫れでこそ初めて打解けて圓滿に税務の仕事が進行し得るのである投書函にしても其の通り投書に遠慮はいらぬ忌憚なき意見でも希望乃至は不平でも宜しい税政も輿論に順應して行く上には是非民衆の聲が必要じや是非共之を利用して足らざる所は補ひ無理な所は矯正さして欲しい切に各位の御利用を望む。

通信

◎萩郵便局七月分行事

七月十三日  
網引

午前四時より小畑浦に於て従事員の魚網引を爲す  
漁獲の生魚を手料理に樹蔭の砂上に天幕張を爲し  
小宴を催せり歡談の裡に平素の憂苦を晴らし午后

廢止し無効處分を爲したる自轉車舊鑑札番號及所有者佳所氏名左の如し▲は乙三

舊鑑札號事

由住所氏名

八七四六七紛

失中の倉第二區  
湯本福松

八八五九八全

椿町區  
山崎豐

八七四五八全

米屋町區  
神村萬吉

八七三〇 盜

三戶作之進

八六四六九紛

失米屋町區  
津田喜右衛門

八八五全

平安古町第二區  
河村一男

八六三全

全區  
全區

卷之五

|        |       |
|--------|-------|
| 唐櫟町區   | 高櫟正治  |
| 夏田町第二區 | 吉公典四郎 |

● 税務署投票函も少しは

利用して欲しい

萩稅務署 齋藤正義

稅務署には以前から民衆の希望や乃至不平等を聞く爲に揭示場の處に投書函が備へ付てあるが之を利用せらるゝ方は至て少いのである近時不景氣の聲が餘



七月十六日 修養講話開催

七月十六日 保險事務講習生派遣

厚狹町に於て十六日より十八日まで三日間廣島遞信局主催の保險事務講習會開催に付當局より講習生として山田事務員出席せり。

七月二十六日 常磐島臨時海水浴場設置

從事員夏期保健衛生施設の一端として二十六日より八月末日まで毎週土曜、日曜の兩日を限り局員の爲常盤島に臨時海水浴場を設け併せて娛樂機關をも備へ置き慰安の施設を爲す

七月二十八日 修養講話

午前十時より中所囑託講師に依り前回に引續く聖德太子の十七ヶ條憲法に就ての講話を聴く

七月二十日 保險事務研究會

今回改正せられたる保險規則、同取扱規程に就き  
午後〇時半より保險部吏員出席の下に事務研究會  
を開催三時散會せり

種別  
前年取扱數

▲は減  
三、三二

|         |     |     |
|---------|-----|-----|
| 表記通常郵便物 | 三三五 | 三三三 |
| 配達      | 三三三 | 三三三 |
| 五、六、七   | 三三三 | 三三三 |
| 五、三、三   | 三三三 | 三三三 |
| ▲       | ▲   | ▲   |
| 三三三     | 三三三 | 三三三 |

|    |    |     |     |     |
|----|----|-----|-----|-----|
| 便物 | 引受 | 五十六 | 五十三 | 三十七 |
|    |    | 六十九 | 一六九 | 一六七 |

|       |      |      |    |
|-------|------|------|----|
| 小包郵便物 | 一十   | 一十四  | 二  |
| 配達    | 三、二四 | 三、二四 | 七二 |

|       |       |
|-------|-------|
| 三、一五〇 | 三、九四  |
| 二、六五〇 | 三、八一四 |

[illegible]

|    |     |     |     |
|----|-----|-----|-----|
| 中藥 | 四七三 | 三六五 | 六四六 |
|----|-----|-----|-----|

|    |     |     |
|----|-----|-----|
| 口數 | 二四七 | 二一〇 |
| 口數 | 二四七 | 二一〇 |

|      |    |     |     |    |
|------|----|-----|-----|----|
| 爲替振出 | 金銀 | 一五七 | 一四七 | 一七 |
|------|----|-----|-----|----|

金密 三四、四七、三八、二五、〇八、四二  
口改 九三、六九、七〇

|      |    |     |     |    |
|------|----|-----|-----|----|
| 爲替拂渡 | 金銀 | 二四三 | 二二五 | 一五 |
|------|----|-----|-----|----|

|    |    |    |    |    |   |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|---|----|----|----|----|----|----|
| 口教 | 金審 | 六五 | 三九 | 二七 | 五 | 三九 | 九二 | 二九 | 一四 | 二九 | 九二 |
|----|----|----|----|----|---|----|----|----|----|----|----|

|         |      |     |    |
|---------|------|-----|----|
| 貯金預入金額  | 二五五三 | 二七六 | 二二 |
| 二、五八、〇四 | 二五五三 | 二七六 | 二二 |
| 三、五五、一七 | 二五五三 | 二七六 | 二二 |
| 四、九七、一三 | 二五五三 | 二七六 | 二二 |

|    |    |
|----|----|
| 口數 | 金幣 |
| 二九 | 二九 |
| 五三 | 五三 |
| 六四 | 六四 |
| 三四 | 三四 |
| 五一 | 五一 |
| 一十 | 一十 |
| 二〇 | 二〇 |
| 四一 | 四一 |
| 九二 | 九二 |
| 一三 | 一三 |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                           |    |     |   |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-----|---|
| 貯金拂戻金額                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 八三 | 八九二 | 六 |
| 三、七、八、九、一〇、一一、一二、一三、一四、一五、一六、一七、一八、一九、二〇、二一、二二、二三、二四、二五、二六、二七、二八、二九、三〇、三一、三二、三三、三四、三五、三六、三七、三八、三九、四〇、四一、四二、四三、四四、四五、四六、四七、四八、四九、五〇、五一、五二、五三、五四、五五、五六、五七、五八、五九、六〇、六一、六二、六三、六四、六五、六六、六七、六八、六九、七〇、七一、七二、七三、七四、七五、七六、七七、七八、七九、八〇、八一、八二、八三、八四、八五、八六、八七、八八、八九、九〇、九一、九二、九三、九四、九五、九六、九七、九八、九九、一〇〇 | 八三 | 八九二 | 六 |

|    |                                      |
|----|--------------------------------------|
| 口數 | 金嶺三<br>九五八<br>四八二<br>九一五<br>〇九七<br>〇 |
| 三二 | 五一<br>一二<br>四六                       |

公有水面埋立認可

七月四日山口縣告示第四百二十六號を以て左記の通  
公有水面の埋立を追認せらる

一、埋立場所 萩町大宇小畑浦地先海面

## 一、埋立目的雜種地

一、埋立面積 十坪七合五勺

一、追認年月日 昭和五年六月二十六日

一、被追認者 兼田德藏

◎瓦斯事業經營の許可

昭和四年十一月十八日、萩瓦斯株式會社發起人總代村田益造より出願に係る瓦斯事業經營に對し七月五日付を以て商工大臣より許可の指令ありたり

◎藍場川筋の浚渫

例年の通七月二十五日人夫八拾名を役使し各關係區長及萩町土木課吏員監督の下に施行浚渫作業を終了せり

|        |    |    |          |          |         |
|--------|----|----|----------|----------|---------|
| 保險料徴收  | 金口 | 額數 | 二七、六〇〇   | 一三六、九〇〇  | 一三四、七〇〇 |
| 年金掛金徴收 | 金口 | 額數 | 一一、八六二   | 一一、八五六   | 六       |
| 年金契約申込 | 金口 | 額數 | 六、九七、一七〇 | 七、七三、一三〇 | 七六五、九〇〇 |
| 年金掛金徴收 | 金口 | 額數 | 二五、一四〇   | 五九、二五〇   | 五七、一〇〇  |
| 年金掛金徴收 | 金口 | 額數 | 四、四二〇    | 六五、〇八〇   | 二三、六七〇  |

同日山口縣告示第四百二十七號を以て左記の通公有水面の埋立を追認せらる

記

一、埋立場所 萩町大字椿東字中小畑地先海面

## 一、埋立目的宅地

一、埋立面積 二十一坪九合九勺

一、追認年月日 昭和五年六月廿六日

一、被追認者 金子八藏外一名



## 社會事象

### ◎越ヶ濱第六區主婦會設立

七月十四日午後三時より越ヶ濱第六區集會所に於て同區主婦會設立發會式を舉行。會する者六十餘名。勅語の奉讀に次で永安氏司會者となり、主婦會の目的、會員の資格等説明あり。林町長獎勵の辭として主婦會の使命、婦人の自覺向上に希望を述べ磯部越ヶ濱小學校長の兒童に對する主婦の心得等懇談あり終つて役員として同區々長夫人を會長同區々長代理者夫人を副會長と爲すの件等を評決し午後五時三十分閉會せり

### ◎萩町窮民へ施與

唐樋町眞鍋ムラ氏は亡夫追善の爲萩町貧困者救助費の内へ金貳拾圓を寄附せられたり茲に其の厚意を感謝す

### ◎國債償還の爲献金

縣立萩中學校生徒并に職員一同は時局に鑑み日常に於ける雜費の節約に依りて得たる高金七拾九圓八拾四錢を國債償還資金の内へ献納方申出ありたるに依り七月九日其の取計を爲したり

### ◎萩町宣傳の小唄

萩を宣傳する俗謡につき曩に萩高等女學校中野教頭を煩はし作歌方依囑中の所大体七七五を一句とする左の十題を得たるに依り目下作曲方交渉中なり

- 一、萩はよいとこ。維新の花も。
- 二、萩はよいとこ。松陰神社。
- 三、萩はよいとこ。偉人の生地。
- 四、萩はよいとこ。明倫館の。

### 昔しのばす。石碑

- 五、萩はよいとこ。笠山のぼり。
- 六、萩はよいとこ。外國までも。
- 七、萩はよいとこ。志都岐のお城。
- 八、萩はよいとこ。海水浴に。
- 九、萩はよいとこ。長門峽の。
- 十、萩はよいとこ。面影山を。

### ◎公人及私人

大塚愛媛縣温泉郡久米小學校長外七名史蹟見學の爲七月三日來萩

武井門司鐵道局運輸事務所長、山下同保線事務所長は美禰線遭難事件に付挨拶の爲七月八日町衙に町長訪問

藤村氏外八名の本縣參事會員は縣經濟會計検査の爲七月八日來萩

伊勢福本縣統計主事補は労働統計準備調査の爲八月十日來萩

占部福岡縣直方町會議員は町行政事務視察の爲八月十一日來萩

水野文部省社會教育官は齋藤本縣屬、岩根本縣考查員と共に社會教育事業視察並に史蹟見學の爲七月十二日來萩

大本山口高等商業學校教授は萩町に於ける同校特別教育開催の件に付七月十二日來萩



兵庫縣明石水産會員濱名長治氏一行は水産業視察の爲七月十五日來萩

繁澤元萩町主事は久しく病臥中の處七月十四日逝去行年六十五

宇佐美資源局長官は植村同局總務部調査課長并山田本縣電氣局庶務課長と共に史蹟見學の爲七月十六日來萩

木全及國吉山口高等商業學校兩教授は萩町主催經濟講演會講師として七月二十二日來萩

黒崎知事、渡會、中島兩地方技師その他八名は阿武大津兩郡町村長集會臨席の爲七月二十九日來萩市村東京帝國大學教授は史蹟見學の爲同日來萩

宇野東京帝國大學教授は脇本、村上本縣視學と共に宮崎廣島女子專門學校教授、三好、兩吳市二河小學校訓導外一名は何れも史蹟見學の爲七月卅一日來萩

衛生

産婆登録

◎七月一日山口縣告示第四百二十五號を以て左記の者産婆名簿に登録の旨發令

萩町大字川島三三四番地 井上ツタコ

七月中町立堀内病院の状況

七月中入院患者及退院者數其の他左の如し

| 病名    | 入院患者數 | 退院者數 | 死亡者數 | 月末在院患者數 |
|-------|-------|------|------|---------|
| 腸チブス  | 二人    | 一人   | 一人   | 一人      |
| 疫痢    | 一     | 九    | 一    | 一       |
| バラチブス | 二     | 二    | 一    | 一       |
| 赤痢    | 七     | 三    | 一    | 四       |
| 計     | 一二    | 一五   | 一    | 五       |

昭和五年一月以降死亡

者埋火葬別

| 七月  | 中   | 六月迄  | 計    |
|-----|-----|------|------|
| 火葬  | 二三人 | 一一〇人 | 一三三人 |
| 計女男 | 二一四 | 一一三  | 一三三  |
| 埋葬  | 八   | 四六   | 五四   |
| 計女男 | 一五七 | 四六九  | 一〇七  |

昭和五年一月以降傳染病患者數

| 七月    | 中  | 六月迄 | 計   |
|-------|----|-----|-----|
| 赤痢    | 六人 | 五人  | 一一人 |
| 腸チブス  | 二  | 一九  | 二一  |
| バラチブス | 一  | 三   | 四   |
| 疫痢    | 五  | 三   | 八   |
| チフテリヤ | 一  | 七   | 七   |
| 計     | 一四 | 三七  | 五一  |

眞夏の安眠法

就寝前の注意

人間は同温動物といつて、春夏秋冬體温は變らず、夏でも冬でも平均三十七度を示します。夏は氣温が高くなるのでその調和の上から衣服を減じ、夜具を薄くして體温の發散を容易ならしめようといふ。しかし夜になつて盜難の憂ひや、あるひは氣温の激變を恐れて戸締を嚴重にすれば、空氣の流通をわるくしたり、日中太陽に射られた屋根瓦や壁などが熱を發散するので就眠に堪へられなくなります。よしんば眠りついても稍もすれば目がさめます、そして睡眠不足から食慾不振を起すようになります、そこで安眠法の必要が起ります。まづ安眠するには夏であらうといつてあらうと、一般安眠法の條件は皆必要であるが、特に夏の安眠法といへば就寝前の入浴を忘れてはなりません、すなはち、心身を爽快にし疲勞を恢復させるからであります。また井戸水を入れた氷枕を用ふれば、暑期の



安眠法は勿論、小兒の顔や頭にアセモのできるのを豫防するに適します、さらに盗難豫防に完備してゐたら、蚊帳をつつて雨戸をあけて寝るのも差支ないが寝冷をせぬように腹巻をせねばなりません。特に注意を要するのは、暑い暑いと夜氷をのんだり脚を冷したり、扇風器をかけつばなしにすると、たちまちに風邪をひきます、また寝苦しいからといって蚊帳を用ひず、蚊取線香を使ふと咽喉カタルを起し、時には激しい咳嗽發作をすることがあります、ゆゑに、夜分は十分の注意を要します。

### 人事

#### 萩町の人口動態

婚姻 離婚 出生 死亡 死産  
昭和五年七月中 四〇人 五人 八八人 八八人 三人  
一月以降累計 三〇 五五 八五 五七 二五

#### ◎七月中出生届出の者

(○印は萩町に本籍なき者)

| 區名   | 戸主の続柄 | 氏名    | 生年月日     |
|------|-------|-------|----------|
| 山田   | 龜一七女  | 武田 貞子 | 昭和六年五月九日 |
| 熊谷町  | 長右衛門孫 | 門田 隆一 | 全 六月二十日  |
| 全    | 常三郎孫  | 山崎 勝也 | 全 六月廿一日  |
| 全    | 長八孫   | 牧野 博介 | 全 六月廿三日  |
| 全    | 孫     | 牧野 健介 | 全 六月廿三日  |
| 藤ヶ瀬  | 已三郎孫  | 岩野タケ子 | 全 六月廿五日  |
| 船津   | 省次姪   | 進藤エミ子 | 全 六月十二日  |
| 越ヶ濱  | 音松長男  | 井町 勝  | 全 六月二十日  |
| 全    | 竹一四女  | 増野 君江 | 全 六月廿五日  |
| 全    | 源一二男  | 松田 益夫 | 全 六月廿五日  |
| 東濱崎町 | 伊勢松三女 | 竹下馨子  | 全 六月十九日  |
| 川島   | 千秋長女  | 松原 雅子 | 全 六月廿四日  |
| 河添   | 耕作二女  | 内田 美苗 | 全 六月廿一日  |
| 浦小畑  | 八藏孫   | 金子 槌藏 | 全 七月一日   |
| 倉江   | 豐藏四男  | 戎屋 實  | 全 六月廿八日  |
| 椿町   | 友藏三男  | 林 英一  | 昭和三年八月三日 |

|      |        |        |           |
|------|--------|--------|-----------|
| 前小畑  | 誠態姪    | 阿武 恭子  | 昭和五年六月廿日  |
| 香川津  | 清太郎孫   | 岡崎 祥明  | 全 六月廿九日   |
| 平安古町 | 新八私生子女 | 平野進    | 全 六月廿五日   |
| 橋本町  | 清槌姪    | 鬼村 雅子  | 全 六月廿六日   |
| 吳服町  | 豐太郎姪   | 井上 武子  | 全 七月一日    |
| 二丁   | 重次四男   | 村田 實   | 全 六月廿四日   |
| 濱崎町  | 萩 甲槌孫  | 古谷 洋一  | 全 七月七日    |
| 平安古町 | 雄三六女   | 河村 昭世  | 全 七月十四日   |
| 唐樋町  | 庄吉孫    | 村田 行彦  | 全 七月十四日   |
| 香川津  | 義忠長女   | 安達 信子  | 全 七月十一日   |
| 濱崎町  | 敏助四男   | 湯島 均   | 全 七月十一日   |
| 堀内   | 豐長女    | 周田 葉子  | 全 七月十一日   |
| 木間   | 末松五男   | 古谷 順一  | 全 六月十六日   |
| 鶴江   | 重吉二女   | 今中坂光子  | 全 三年九月廿日  |
| 土原   | 芳一長男   | 三好 元介  | 全 五年六月廿日  |
| 濱崎   | 常吉孫    | 吉田 恭馬  | 全 七月十三日   |
| 越ヶ濱  | 八十八長男  | 小野公一   | 全 七月十二日   |
| 樽屋町  | 金槌孫    | 竹下八重子  | 全 七月十七日   |
| 中津江  | 實 孫    | 馬屋原範忠  | 大正三年十月九日  |
| 全    | 實 孫    | 馬屋原和子  | 全 十五年七月廿日 |
| 全    | 實 孫    | 馬屋原志津子 | 昭和三年七月九日  |
| 川島   | 義生三女   | ○藤原 愛子 | 全 五年七月三日  |
| 山田   | 道藏妻    | 高橋 キヨ  | 全 七月廿四日   |
| 御許町  | 文子祖母   | 和田 スミ  | 全 七月廿五日   |
| 土原   | 三雄二男   | 高須 濟治  | 全 七月廿二日   |
| 古萩町  | 喜一三女   | 松本 絹枝  | 全 七月十八日   |
| 奥玉江  | 八郎二男   | 野村 良治  | 全 七月十七日   |
| 中ノ倉  | 市郎孫    | 佐々木和子  | 全 七月廿五日   |
| 松本市  | 龍海四男   | 三輪 義觀  | 全 七月十五日   |
| 西田町  | 清助孫    | 出羽 保子  | 全 七月十七日   |
| 後小畑  | 平左衛門孫  | 山本 晃   | 全 五年七月六日  |
| 濱崎町  | 萬槌四男   | 大草 嘉數  | 全 七月一日    |
| 川島   | 良太孫    | 松浦 美子  | 全 七月四日    |
| 吉田町  | 新作孫    | 古川 綾子  | 全 五月廿五日   |
| 濱崎新町 | 倉松長男   | 柳井 義明  | 全 七月六日    |
| 越ヶ濱  | 庄一二女   | 安藤セツ子  | 全 七月六日    |
| 玉江浦  | 帳吉二男   | 網屋 義治  | 全 七月十日    |
| 奥玉江  | 熊次郎孫   | 岸 隆夫   | 全 七月五日    |
| 河添   | 吉三三男   | 宮内 義雄  | 全 七月八日    |
| 浦小畑  | 久次郎孫   | 青木 勇   | 全 七月十三日   |



|      |        |       |   |          |
|------|--------|-------|---|----------|
| 下五間町 | 榮五郎長女  | 森田ハツ子 | 全 | 七月十二日    |
| 吉田町  | 德治孫○惠本 | 芳枝    | 全 | 七月十三日    |
| 熊谷町  | 繁之助孫   | 齋藤寛子  | 全 | 七月十一日    |
| 北古萩町 | ヤン孫    | 酒向俊光  | 全 | 七月七日     |
| 浦小畑  | 壽太郎三女  | 三輪マサエ | 全 | 七月十七日    |
| 金谷   | 禎祿孫    | 黒瀬淳子  | 全 | 七月八日     |
| 倉江   | 正男長女   | 荒川貞江  | 全 | 七月十六日    |
| 無田ヶ原 | 正雄庶子男  | 山田正志  | 全 | 七月十一日    |
| 土原   | 定次三男   | 安間昭雄  | 全 | 七月十二日    |
| 浦小畑  | 喜一三女   | 水津俊子  | 全 | 七月十二日    |
| 瓦野   | 芳亮二男   | 福井啓二  | 全 | 七月五日     |
| 上野   | 太郎孫    | 横山幸   | 全 | 七月十四日    |
| 惠美須町 | 民藏孫    | 金子チエ子 | 全 | 四月十七日    |
| 松本市  | 貫市三男   | 上田祥夫  | 全 | 五年七月十一日  |
| 堀内   | 忠輝二男   | 柳林良信  | 全 | 六月三十日    |
| 吉田町  | 四郎二男   | 三好貞治  | 全 | 六月廿八日    |
| 藤ヶ瀬  | 甚太衛門甥  | 山中喬   | 全 | 大正五年閏七月  |
| 椿町   | 四郎長女   | 前原幸子  | 全 | 昭和五年六月三日 |
| 河添   | 梧良三女   | 松村久代  | 全 | 六月廿七日    |
| 全    | 新吉孫○佐伯 | 好雄    | 全 | 七月四日     |
| 鶴江   | 百合松三女  | 長谷川雪子 | 全 | 六月廿二日    |
| 江向   | 潤三男    | 松永昌祐  | 全 | 五月廿九日    |
| 青海   | 市熊孫    | 藤田壽美子 | 全 | 六月三十日    |
| 香川津  | 實熊六女   | 矢次八重子 | 全 | 六月廿七日    |
| 土原   | 清二男    | 阿部宏之  | 全 | 六月廿六日    |
| 香川津  | 五郎長男   | 藤田勇   | 全 | 七月六日     |
| 堀内   | 乙磨長男   | 石津邦夫  | 全 | 七月二日     |
| 目代   | 坂槌四女   | 津田キヨ子 | 全 | 七月八日     |
| 堀内   | 市介四女   | 中原輝子  | 全 | 七月五日     |
| 藤ヶ瀬  | モミノ夫ノ甥 | 村田敏之  | 全 | 七月三日     |
| 川島   | 亡松樹甥   | 吉岡平二  | 全 | 五月卅一日    |
| 土原   | 恒雄二女   | 吉岡良子  | 全 | 七月一日     |
| 今古萩町 | 豊人二男   | 中村宜昭  | 全 | 七月四日     |
| 北古萩町 | 正信四男   | 磯村守   | 全 | 七月三日     |
| 玉江浦  | 初市五男   | 坂本清   | 全 | 七月八日     |
| 濱崎町  | 新一四女   | 松原和子  | 全 | 七月二日     |
| 北古萩町 | 仁三郎孫   | 住吉屋妙子 | 全 | 七月四日     |
| 山田   | 新作二女   | 山下良子  | 全 | 七月十日     |
| 川島   | 盛亮二女   | 田邊和子  | 全 | 七月十八日    |
| 山田   | 實作孫    | 上田シズ子 | 全 | 七月十五日    |

◎七月中死亡届出の者

(○印は萩町に本籍なき者)

|      |       |        |   |       |
|------|-------|--------|---|-------|
| 江向   | 德夫二女  | 中村道子   | 全 | 七月十七日 |
| 吉田町  | 新一二女  | 村田榮子   | 全 | 七月廿二日 |
| 木間   | 嘉藏孫   | 西山榮    | 全 | 七月二十日 |
| 後小畑  | 友次郎孫  | 野村茂吉   | 全 | 七月廿八日 |
| 倉江   | 武一二男  | 長谷川彦太郎 | 同 | 七月五日  |
| 濱崎新町 | 安一姪   | 後藤教子   | 同 | 一月十三日 |
| 熊谷町  | 清吉孫   | 田中義一   | 同 | 七月五日  |
| 浦小畑  | 金槌長男  | 河村槌藏   | 同 | 七月六日  |
| 平安古町 | 新八甥   | 平野進    | 同 | 七月七日  |
| 藤ヶ瀬  | 甚右衛門甥 | 山中百松   | 同 | 六月十九日 |
| 北古萩町 | 亡豊吉三男 | 新屋安藏   | 同 | 七月八日  |
| 川島   | 市郎長男  | 谷村芳一   | 同 | 七月二日  |
| 西田町  | 久吉養子  | 藤原喜雄   | 同 | 六月廿八日 |
| 沖原   | 米藏三男  | 古屋正夫   | 同 | 七月三日  |
| 平安古町 | 末吉二男  | 平野秀信   | 同 | 七月九日  |
| 濱崎新町 | 淺太郎甥  | 増野道昭   | 同 | 七月十日  |
| 江向   | 新一父   | 大田萬藏   | 同 | 七月十日  |
| 香川津  | 新一長男  | 湯淺友亮   | 同 | 七月九日  |
| 熊谷町  | 戸主    | 土井トミ   | 同 | 七月十一日 |
| 小原   | 佐一長女  | 岩崎君子   | 同 | 七月八日  |
| 平安古町 | 吾一妻   | 三輪田まさ  | 同 | 七月六日  |
| 香川津  | 戸主    | 中島彌作   | 同 | 七月十日  |
| 江向   | 清助妻   | 中尾チヨ   | 同 | 七月十日  |



|      |       |       |   |       |
|------|-------|-------|---|-------|
| 濱崎町  | 與槌二女  | 松浦美惠子 | 同 | 七月十日  |
| 土原   | 繁藏長男  | 杉山喜一  | 同 | 七月十三日 |
| 川島   | 太郎父   | 藤山三郎  | 同 | 七月七日  |
| 同    | 戸主    | 山本イクノ | 同 | 七月十六日 |
| 船津   | 彌吉妻   | 久保山サト | 同 | 七月十七日 |
| 土原   | 譽一祖母  | 村田イネ  | 同 | 七月十二日 |
| 同    | 勇助三女  | 梅屋雅枝  | 同 | 七月十四日 |
| 北古萩町 | 仁三郎孫  | 住吉屋妙子 | 同 | 七月十四日 |
| 藤ヶ瀬  | 花松姪   | 櫻井ヒサ子 | 同 | 七月十四日 |
| 濱崎新町 | 捨一二男  | 濱村信作  | 同 |       |
| 堀内   | 戸主    | 繁澤寅之助 | 同 |       |
| 雜式町  | 捨吉孫   | 河村鐵次郎 | 同 | 七月十三日 |
| 木間   | 太一孫   | 藤田時春  | 同 | 七月十四日 |
| 中ノ倉  | 文太二女  | 多田啓子  | 同 | 七月十七日 |
| 津守町  | 俊乘母   | 津村キク  | 同 | 七月十四日 |
| 鶴江   | 卯吉長男  | 松本實   | 同 | 七月十六日 |
| 川島   | 淺五郎妻  | 中原ユキ  | 同 | 七月十九日 |
| 松本市  | 戸主    | 福田好藏  | 同 | 七月十八日 |
| 越ヶ濱  | 熊藏弟   | 阿部貞藏  | 同 | 七月十九日 |
| 同    | 亡音松長男 | 中谷市郎  | 同 |       |

|      |       |       |   |           |
|------|-------|-------|---|-----------|
| 堀内   | 戸主    | 谷村守文  | 同 |           |
| 惠美須町 | 長吉妻   | 竹内ツチ  | 同 |           |
| 南古萩町 | 七八郎婦  | 兒玉孝子  | 同 | 七月十七日     |
| 香川津  | 市藏婦   | 中川ハツ子 | 同 | 七月二十日     |
| 玉江浦  | 龜吉孫   | 上領壽吉  | 同 | 昭和四年五月六日  |
| 江向   | 次郎二女  | 河内山貞子 | 同 | 昭和五年七月廿二日 |
| 越ヶ濱  | 平作長女  | 井町一枝  | 同 |           |
| 浦小畑  | シヅメ母  | 千草フエ  | 同 | 七月廿二日     |
| 後地   | 兼吉妻   | 中家キク  | 同 |           |
| 土原   | 戸主    | 波多野公輔 | 同 |           |
| 濱崎新町 | 政一次女  | 香川ミチ  | 同 |           |
| 後小畑  | 長治郎二女 | 白石イソ  | 同 |           |
| 浦小畑  | 戸主    | 上田茂一  | 同 | 七月十九日     |
| 惠美須町 | 民藏孫   | 金子チエ子 | 同 | 七月十六日     |
| 藤ヶ瀬  | 戸主    | 藤河谷五郎 | 同 | 七月十九日     |
| 中ノ倉  | 正行養母  | 梅尾ハルコ | 同 | 七月二十日     |
| 樽屋町  | 甚一長男  | 引頭一勇  | 同 | 七月廿一日     |
| 船津   | スエ母   | 鈴木ハナ  | 同 | 七月廿三日     |
| 川島   | 信祖母   | 兼重ユク  | 同 | 七月廿四日     |
| 今古萩町 | 弟一長女  | 高原佐保  | 同 | 七月廿一日     |

|      |       |        |   |       |
|------|-------|--------|---|-------|
| 浦小畑  | 市藏養女  | 來島ユキ   | 同 | 七月廿七日 |
| 土原   | 戸主    | 杉山熊藏   | 同 | 七月廿八日 |
| 雜式町  | 戸主    | 田原米一   | 同 | 七月廿六日 |
| 後小畑  | 平右衛門孫 | 山本晃    | 同 |       |
| 北古萩町 | 戸主    | 山中榮一   | 同 | 七月廿二日 |
| 上五間町 | 友太郎孫  | 金子菊江   | 同 | 七月廿八日 |
| 吉田町  | 一郎二男  | 伊藤壽    | 同 |       |
| 東濱崎町 | 美介三女  | 古澤マサエ  | 同 | 七月十三日 |
| 唐樋町  | 彌一姪   | ○高原カブシ | 同 | 七月廿八日 |
| 堀内   | 久松姪孫  | ○阿川毅章  | 同 |       |
| 今魚店町 | 一藏母   | 土井ウメ   | 同 | 七月廿五日 |
| 御許町  | 戸主    | 木村勝介   | 同 | 七月廿九日 |
| 吳服町  | 龜三郎長男 | 山本ヒサ子  | 同 |       |
| 平安古町 | 戸主    | 米原米藏   | 同 | 七月卅日  |
| 川島   | 孫三郎養父 | 木村安次郎  | 同 |       |
| 香川津  | 三郎母   | 三島マム   | 同 | 七月廿九日 |
| 平安古町 | 次郎吉妹  | 片山房子   | 同 | 七月十九日 |

|     |     |     |     |      |
|-----|-----|-----|-----|------|
| 出寄留 | 三二人 | 二四人 | 五六人 | 五七四人 |
| 退去  | 二   | 一   | 三   | 一〇一  |
| 計   | 三四  | 二五  | 五九  | 六七五  |
| 入寄留 | 三三  | 三〇  | 六三  | 五五二  |
| 復歸  | 四   | 一   | 五   | 一四三  |
| 計   | 三七  | 三一  | 六八  | 六九五  |

○印は復歸の者 △印は町内轉寄留の者  
區名 世帯主の續柄氏名 入寄留又は復歸年月日  
平安古町 世帯主 △佐伯トヨネ 昭和五年六月廿七日  
全 長男 △全 正道 全  
全 二男 △全 孝友 全  
川島 世帯主 △野村太作 全 七月一日  
全 妻 △ 又イ 全  
全 二女 △ 芳子 全  
全 三女 △ 富士子 全  
全 二男 △ 豐年 全

◎七月中出入寄留者數統計

◎七月中入寄留者及復歸者



|   |      |      |    |       |    |   |       |
|---|------|------|----|-------|----|---|-------|
| 全 | 瓦町   | 四女   | △  | 小林    | 吉榮 | 全 | 七月三日  |
| 全 |      | 妻    | 全  | マサ子   | 全  |   |       |
| 全 | 小    | 小林吉榮 | 全  | 山下    | 博  | 全 |       |
| 全 | 香川津  | 縁故者  | 全  | 清水    | 秀吉 | 全 |       |
| 全 |      | 世帶主  | 全  | トミエ   | 全  |   |       |
| 全 |      | 妻    | 全  | 敏行    | 全  |   |       |
| 全 | 長男   |      | 全  | 普一    | 全  |   |       |
| 全 | 平安古町 | 世帶主  | △  | 沖田    | 貞子 | 全 | 七月一日  |
| 全 |      | 妻    | △  | 春江    | 全  |   |       |
| 全 | 長女   |      | △  | 將     | 全  |   |       |
| 全 | 吳服目町 | 世帶主  | 全  | 千代    | 全  |   | 七月三日  |
| 全 | 一丁目  | 妻    | 全  | 助七    | 全  |   |       |
| 全 | 今古萩町 | 世帶主  | ○  | 大葉勢ヒサ | 全  |   | 七月四日  |
| 全 | 熊谷町  | 全    | 兒玉 | 乙一    | 全  |   | 七月一日  |
| 全 | 平安古町 | 全    | 山田 | 糸次郎   | 全  |   | 五月廿五日 |
| 全 | 江向   | 全    | △  | ヨ子    | 全  |   | 七月一日  |
| 全 |      | 妻    | △  | 全     | 全  |   |       |
| 全 | 長男   |      | △  | 水津    | 要人 | 全 |       |
| 全 | 山田   | 次郎   | 全  | 全     | 全  |   |       |
| 全 | 濱崎町  | 世帶主  | ○  | 見島    | 勇熊 | 全 | 六月十日  |

|   |      |     |    |     |     |       |
|---|------|-----|----|-----|-----|-------|
| 全 | 東田町  | 全   | 枝吉 | 德次  | 全   | 七月十日  |
| 全 | 樽屋町  | 全   | 兒玉 | 重一  | 全   | 七月二日  |
| 全 | 今古萩町 | 全   | 檜垣 | 繁一  | 全   | 六月卅日  |
| 全 | 全    | 妻   | 全  | ヒデコ | 全   |       |
| 全 | 全    | 長女  | 全  | 順子  | 全   |       |
| 全 | 松本市  | 世帶主 | △  | 福田  | 好藏  | 全     |
| 全 | 全    | 妻   | △  | ハツ  | 全   | 七月十六日 |
| 全 | 全    | 養子  | △  | 豊   | 全   |       |
| 全 | 全    | 三女  | △  | 太田  | ハツ子 | 全     |
| 全 | 全    | 二男  | △  | ヒサ子 | 全   |       |
| 全 | 全    | 世帶主 | 全  | 政夫  | 全   |       |
| 全 | 全    | 長男  | 全  | 池村  | 秀雄  | 全     |
| 全 | 全    | 二男  | 全  | 隆良  | 全   |       |
| 全 | 全    | 世帶主 | 全  | 一元  | 全   |       |
| 全 | 船津   | 世帶主 | 全  | 宇佐川 | 一   | 全     |
| 全 | 全    | 母   | 全  | トメ  | 全   |       |
| 全 | 中ノ倉  | 世帶主 | 全  | 奥山  | 久松  | 全     |
| 全 | 全    | 妻   | 全  | 忍   | 全   | 七月二十日 |
| 全 | 全    | 長女  | 全  | ハツエ | 全   |       |

◎七月中出寄留者及退去者

|   |      |      |     |    |    |       |
|---|------|------|-----|----|----|-------|
| 全 | 全    | 二女   | 全   | 愛子 | 全  |       |
| 全 | 西田町  | 長男   | 全   | 保治 | 全  | 七月十五日 |
| 全 | 瓦町   | 世帶主  | 八道  | ツチ | 全  | 六月十日  |
| 全 | 全    | 長男   | 全   | 正元 | 全  |       |
| 全 | 全    | 二女   | 全   | 澄子 | 全  |       |
| 全 | 全    | 二男   | 全   | 英晴 | 全  |       |
| 全 | 細工町  | 世帶主  | 仲野  | 庄藏 | 全  | 七月十七日 |
| 全 | 全    | 長女   | ウメ子 | 全  | 全  |       |
| 全 | 全    | 孫    | 仲野  | 康典 | 全  |       |
| 全 | 堀内   | 世帶主  | △   | 市川 | 豊治 | 全     |
| 全 | 全    | 妻    | △   | かね | 全  | 七月廿一日 |
| 全 | 越ヶ濱  | 世帶主  | △   | 小島 | ヒナ | 全     |
| 全 | 北古萩町 | 全    | △   | 好木 | 廉  | 全     |
| 全 | 全    | 長男   | ○   | 卓藏 | 全  | 七月二十日 |
| 全 | 全    | 長男   | ○   | 兼田 | 博  | 全     |
| 全 | 南片河町 | 吉郎弟  | ○   | 岡田 | 敏子 | 全     |
| 全 | 吉田町  | 古川俊甫 | 縁故者 | 岡田 | 敏子 | 全     |
| 全 | 全    | 世帶主  | 全   | 古川 | 俊甫 | 全     |
| 全 | 全    | 庶子女  | 全   | 綾子 | 全  |       |
| 全 | 唐樋町  | 世帶主  | 石橋  | シゲ | 全  | 七月二十日 |

|   |      |            |          |
|---|------|------------|----------|
| 全 | 區名   | 戸主と氏名      | ○印は退去者   |
| 全 | 川島   | 德藏四男 阿武 繁雄 | 昭和五年六月七日 |
| 全 | 東田町  | 戸主 村田ミドリ   | 全 六月二十日  |
| 全 | 倉江   | 利一妻 小野村ヒデ  | 全 六月廿五日  |
| 全 | 全    | 長女 全       | 静江 全     |
| 全 | 雜式町  | 治郎 姉 山 本英  | 全 六月廿二日  |
| 全 | 浦小畑  | 義一妹 中村アヤコ  | 昭和四年九月七日 |
| 全 | 堀内   | 忠篤二男 伊藤 大藏 | 昭和五年六月六日 |
| 全 | 川島   | 操二女 吉田 治代  | 全 六月三日   |
| 全 | 河添   | 耕作二女 内田 美苗 | 全 七月三日   |
| 全 | 前小畑  | 銀六郎二女 厚東康子 | 全 六月六日   |
| 全 | 無田ヶ原 | 戸主 田中 秀光   | 全 七月一日   |
| 全 | 全    | 妻 全        | ヤヘ 全     |
| 全 | 全    | 長女 全       | 三重子 全    |
| 全 | 香川津  | 彌作長男 中島 政人 | 全 六月廿四日  |
| 全 | 平安古町 | 詳朔二男 吉田 禎  | 全 六月三十日  |



|    |    |       |      |       |        |       |       |        |     |      |       |      |       |       |    |       |       |
|----|----|-------|------|-------|--------|-------|-------|--------|-----|------|-------|------|-------|-------|----|-------|-------|
| 全  | 全  | 濁     | 椎    | 平安古町  | 御許町    | 無田ヶ原  | 古萩町   | 越ヶ濱    | 全   | 惠美須町 | 吉田町   | 全    | 奧玉江   | 松本市   | 全  | 倉     | 平安古町  |
| 孫  | 婦  | 淵     | 原    | 雄三六女  | 國太郎庶子男 | 戸主    | 戸主    | 惣右衛門二女 | 婦   | 正祐養子 | 仁助養子  | 弟孝一妻 | 範槌弟   | 貫市三男  | 妻  | 戸主    | 雄三六女  |
| ○全 | ○全 | ○池半   | 土屋   | 河村    | 神谷圭亮   | 山田    | 波多野キヲ | 小川ハルコ  | 全   | 宮本五郎 | 有井市熊  | 同花   | 野坂孝一  | 上田祥夫  | 全  | 中村    | 河村    |
| 輝男 | 正子 | 美法    | 秀雄   | 昭世    | テヨ     | 正雄    | 全     | 全      | タマエ | 全    | 全     | 花    | 全     | 全     | ヨシ | 勸槌    | 昭世    |
| 全  | 全  | 全     | 全    | 全     | 全      | 全     | 全     | 全      | 全   | 全    | 全     | 全    | 全     | 全     | 全  | 全     | 全     |
|    |    | 七月廿五日 | 七月十日 | 七月十五日 | 七月廿二日  | 七月十八日 | 六月一日  | 七月七日   |     | 七月十日 | 七月十二日 |      | 六月廿六日 | 七月十一日 |    | 七月十九日 | 七月十五日 |

越ヶ濱 辰藏弟 秋田五郎一 全 七月廿一日  
全 弟 妻 全 ミツ 全  
北古萩町 與市 甥 川村 實 同 七月廿六日

|         |         |         |         |       |         |        |         |          |         |         |        |       |        |       |     |     |
|---------|---------|---------|---------|-------|---------|--------|---------|----------|---------|---------|--------|-------|--------|-------|-----|-----|
| 牛乳營業取締規 | 按摩術營業取締 | 山口縣警察犯處 | 結核豫防法違反 | 嬰 兒 殺 | 業務上過失致死 | 印紙稅法違反 | 議員選舉法違反 | 自動車取締令違反 | 暴力行為等處罰 | 陸軍々人服役令 | 施行規則違反 | 森林法違反 | 銃砲火藥取締 | 阿片煙販賣 | 失 火 | 傷 害 |
| 則違反     | 規則違反    | 罰令違反    |         |       |         |        |         |          |         |         |        |       |        |       |     |     |
| 一       | 一       | 一       | 一       | 一     | 一       | 一      | 一       | 一        | 一       | 一       | 一      | 一     | 一      | 一     | 一   | 一   |
| 一       | 一       | 二       | 一       | 一     | 一       | 一      | 二       | 四        | 一       | 一       | 一      | 一     | 一      | 一     | 三   | 八   |
| 二       | 一       | 一       | 一       | 一     | 一       | 二      | 三       | 一        | 三       | 一       | 一      | 一     | 一      | 一     | 五   | 七   |



過失往來妨害  
計

三 一  
六 一  
九 一  
八 二  
八 九

## 雜事

### ●新しい郵便はかきを観て

本願寺特選布教使 守 重 哲 雄

逓信省では八月一日から郵便はかきの様式を改正し中央に楠公の銅像を現はし之に櫻花を配す、其の意匠の象徴する所、今更ら事改めて言ふを要せず然るに楠公と 明治大帝並に楠公の風采に就て最も懐しい追慕と最も珍しい憧憬を記するものも亦之れ恰好のチャンスと思ふから其の梗概を認む。

天、明治天皇と正成の神靈

明治の初め京都鴨川の畔に於て正成の祭事あり、其の後神戸に湊川神社が出来た、其の時神體を定むるに就て宮内大臣より 明治天皇に奏請する所あり陛下は御親ら「正成神靈」の四大文字を御揮毫あらせられ、之を以て神體にせよと御諒あり之を聞き傳へ

て藤島神社（福井市に在り、新田義貞を祀る）宮司等全様の御扱ひを願ひ出でた所 陛下は「義貞にはよからう」と仰せあり許し玉はず、仍て又た兜を持ちて之を神體にと願ひ出でたが亦た許されず、遂に鏡を神體に御指定あり、御在世中臣下に對し親しく御宸筆を以て神體を定め玉ひしは唯だ正成あるのみ（大喪使囑託多田好問氏の談）如何に 明治天皇が正成を追慕あらせられたか大御心のほど拜察するに餘りあり

地、楠公の風采

大阪府下富田林中學校教諭大熊權平氏著（大楠公奮忠事歴）（賜天覽台覽）に據る。大楠公肖像考に「正成は貌瘦せて骨多く色黒し其の長け五尺に足らずして言語猛からず、然れども其の德至て高かりければ威を敵軍に振ひ、譽れを古今に傳へ、勇智仁義の器用ありて諸人の上に將とし 天皇を佐けて功を成す」とある兵庫巻の跋文を引き氏が十有餘年心血を注ぎ研鑽し、楠公の風采を記する唯一の兵庫巻を小楠公が勅令により刻みし肖像、一は文装端嚴の神像（産土神なる南木神社に在り）並に武裝勇武の靈像

（天野山金剛寺に在り）と對照して全く符節を合すと云へり

有名なる水戸光圀公が湊川河畔の廣嚴寺に氏の兩像を模刻して寄附せられしも亦た所以ありと云はねばならぬ。

### ●圖書寄贈

◎廣島逓信局報 七月四日號外 一部

廣島逓信局

◎帝人岩國月報 七月號 一部

帝國人造絹絲株式會社岩國工場

◎豐浦郡報 七月號 一部

豐浦町村長會

### ●昨年の今月今日

七月二日、濱口民政黨總裁に對し内閣組織の大命降下す本日より二十日間萩町主催船舶職員養成講習會開催

三日、本日より三日間元阿武郡役所に於て萩町の徴兵検査施行

四日、町有林地に關し林野整理委員會開催

六日、大森知事熊本縣に轉任、黒崎眞也氏本縣知事に任命

九日、第六回町會開會

十五日、本日より二十一日迄衛生週間

十九日、黒崎知事地方視察の爲來萩

廿四日、萩田万崎線府縣道中小畑地内局部改修工事起工式舉行

廿六日、本日より十二日間菊ヶ濱に於て山口縣及阿武郡教育會、萩町並萩商工會聯合主催の游泳講習會開催

廿七日、軍艦山城入港、艦載飛行機に依り萩町を俯瞰撮影

廿八日、本日より八月十日迄山口縣及阿武郡教育會並萩町聯合主催林間學校を志都岐公園内に開設

廿九日、故田中大將、久原前遞相相携へて歸萩

三十日、午後七時より明倫小學校々庭に於て前田中總理大臣並久原前遞信大臣の歡迎會を開催



●七月中萩町日誌

本月報登載  
外のもの

二日、金子助役町内を巡視す。

水泳講習會開催に付關係者集會協議を遂ぐ

四日、金子助役、阿武書記は菊ヶ濱海水浴場内賣店  
位置に付實地調査

阿武郡竹工販賣購買組合役員會を町衙に開催

十一日、本日より廿四日迄堀内公會堂に於て山口高

等商業學校特別教育を開始

十七日、發動機船等議題に付梅月亭に於て關係者

集會協調成立に付林町長列席

十八日、課長會議開催

廿一日、廳舎内外大掃除施行

本日より八月中を限り執務時限を午前八時より正

午迄とす

廿二日、廳内吏員を以て組織する巴城會總會を開催

併せて俵田書記補退職送別茶話會を催す

町公會堂に於て經濟講演會開催

廿六日、町衙に於て阿武郡教育會幹部集會開催

町衙に於て阿武郡竹工販賣購買組合理事會開催

廿七日、午後二時より樓上に於て大連見本市視察談  
三開催

廿九日、山口市に於ける山口縣町村長集會に列席の

爲金子助役代理として出山即日歸廳

暑中御見舞申上候

昭和五年盛夏

萩町長 林 勇 輔

外萩町吏員一同